

小・中学校における

通常の学級担任のための 指導のアイデア

— 特別な教育的支援が必要な子どもへの指導・支援の工夫 —

はじめに

平成15年3月、特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議より、「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」が公表されました。この報告によると、LD、ADHD、高機能自閉症により学習や生活に特別な教育的支援を必要とする児童生徒は、全体の約6.3%の割合で小・中学校の通常の学級に在籍しているということが明らかになりました。そこで、通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うことが求められています。

また、平成16年1月には、文部科学省より「小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」が示され、各小・中学校には特別支援教育の体制整備が求められています。

本市の小・中学校においても、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの校務分掌への位置付けなどが行われ、関係機関との連携を図りながら個々の教育的ニーズに応じた指導・支援の具体化に向けた取組が進められています。

そうした中で、学級担任が「ちょっと気になる」「どこにつまずいているのかな」「どうしてできないのかな」「こんな時どうしたらいいのかな」と考えた時こそが、児童生徒の教育的ニーズに気づき、指導・支援を工夫する大きなきっかけとなります。

このような状況を踏まえ、本冊子では、一日の学校生活の中でみられがちな子どものつまずきを取り上げ、学級担任が日々の指導で活用できる指導のアイデアを具体的に紹介しています。

各学校において、本冊子を指導や研修に活用していただき、今後、特別な教育的支援を必要とする児童生徒だけでなく、すべての児童生徒の指導・支援の充実につなげていただければ幸いです。

平成17年3月

北九州市教育委員会

指導第二課長 半田 康行

*** 目 次 ***

はじめに		
活用に当たって	1
I 学級集団をまとめるための指導・支援の工夫		
〔学習態勢づくり〕		
・気持ちのよい学習環境を整えるために	5
・指示をみんなに伝えるために	7
・時間やルールを守るために	9
・忘れ物を少なくするために	11
・集中して視写ができるために	13
II 集団行動に困難を示す子どものための学校生活の一日の流れに沿った指導・支援の工夫		
〔登校指導〕	一日のスタートがスムーズに行くために	17
〔健康観察・朝自習〕	子どもの様子を簡潔に把握するために	19
〔給食指導〕	楽しく給食を食べるために	21
〔給食当番・掃除当番〕	係の仕事に取り組むために	23
〔昼 休 み〕	昼休みを楽しく過ごすために	25
〔係 活 動〕	係活動で協力し合うために	27
〔帰りの会〕	一日がよい雰囲気終わるために	29
〔下校指導〕	連絡帳を書く習慣をつけるために	31
〔学校行事〕	運動会・学習発表会に混乱なく参加するために	33
〔なかまづくり〕	友だちと仲良く過ごすために①	35
	友だちと仲良く過ごすために②	37
	友だちと仲良く過ごすために③	39
III 学習に困難を示す子どものための各教科等の指導・支援の工夫		
〔国語 話す i〕	分かりやすく話すことができるために	43
〔国語 話す ii〕	助詞が正しく使えるようになるために	45
〔国語 読む〕	音読が正しくできるようになるために	47
〔国語 書く i〕	文字を正しくていねいに書くために	49

〔国語 書く ii〕	特殊音節が書けるようになるために	51
〔国語 書く iii〕	漢字を覚えて書けるようになるために	53
〔国語 作文〕	作文が書けるようになるために	55
〔国語 板書の視写〕	視写しやすい板書の工夫	57
〔国語 テスト〕	抵抗なくテストに取り組むために	59
〔算数 計算〕	計算問題ができるようになるために	61
〔算数 文章題〕	文章題ができるようになるために	63
〔算数 図形〕	図形問題ができるようになるために	65
〔社 会〕	資料を正しく読み取るために	67
〔理 科〕	実験や観察がスムーズにできるために	69
〔体 育〕	運動を楽しくできるようにするために	71
〔音 楽〕	リコーダーをうまく演奏するために	73
〔図画工作〕	楽しく表現活動をするために	75
〔総合的な学習の時間〕	インタビューがうまくできるために	77

IV 北九州市内の教育相談機関・専門機関

〔教育相談〕

・北九州市立養護教育センターではどんな教育相談ができますか？	81
・北九州市立総合療育センターではどんな相談ができますか？	83
・通級指導教室入級のための手続きは？	85
・北九州市子ども総合センターではどんな相談ができますか？	87
・北九州市自閉症・発達障害支援センター「つばさ」では どんな相談ができますか？	89

引用・参考文献	91
---------	----

研究同人

活用に当たって

○ 学級全体の指導の工夫として

学級担任は、学級全体をまとめ、指導することが求められています。しかし、日々の学級指導や生活指導のなかで「こんな時はどうすればいいのかな」と対応に苦慮したことはありませんか。この冊子では、日頃の指導を通して、すぐに取り組みそうな指導方法を取り上げています。冊子に紹介しているアイデアを、指導方法の見直しや指導の工夫に役立ててください。

○ 特別な教育的支援が必要な子どもへの指導・対応の工夫として

どの学級にも「一斉の指示だけでは授業への参加が難しい。」など、気になる子どもが何人かいます。そのような子どもたちもできるだけ集団活動に参加できるように、学級担任としての指導・対応の工夫を取り上げています。学級担任は、そのような子どもの実態を把握しながら、まずはできることから取り組んでみてください。

○ 身近なアイデア集として

子どもの実態や背景が異なれば、対応の仕方も一人一人異なります。「このようにすれば、必ずうまくいく。」というようにはいきません。この冊子では、先生方の工夫例を参考に、問題解決のアイデアとしてまとめました。指導に困った時の手掛かりとして、また、研修資料としてご活用ください。

このアイデア集は、4つの柱で構成しています。

I 学級集団をまとめるための指導・支援の工夫

学習態勢づくり

II 集団行動に困難を示す子どものための学校生活の一日の流れに沿った指導・支援の工夫

登校指導 健康観察・朝自習

給食指導 給食当番・掃除当番

昼休み 係活動

帰りの会 下校指導

学校行事 なかまづくり

III 学習に困難を示す子どものための各教科等の指導・支援の工夫

国語 話す i ii 国語 読む 国語 書く i ii iii

国語 作文 国語 板書の視写 国語 テスト

算数 計算 算数 文章題 算数 図形

社会 理科 体育 音楽 図画工作

総合的な学習の時間

IV 北九州市内の教育相談機関・専門機関

北九州市立養護教育センター（教育機関）

北九州市立総合療育センター（医療・福祉機関）

通級指導教室（教育機関）

北九州市子ども総合センター（福祉機関）

北九州市自閉症・発達障害支援センター「つばき」（福祉機関）

I

学級集団をまとめるための 指導・支援の工夫

学習態勢づくり

- ◆ 気持ちのよい学習環境を整えるために
- ◆ 指示をみんなに伝えるために
- ◆ 時間やルールを守るために
- ◆ 忘れ物を少なくするために
- ◆ 集中して視写ができるために

このアイデア集では、各ページに支援内容の項目を「～ために」として表題に掲げています。子どもの実態やニーズに応じて必要な項目からお読みください。

気持ちのよい学習環境を整えるために

○こんなときは

教室全体がざわついていたり、子どもの机の上が雑然としていたりすると、落ち着いて学習に取り組めません。個人の学習道具の片付け、掲示物や教室内の道具の整理など、日頃から授業に集中して取り組めるように学習環境を整える指導が必要です。

●それはどうして？

教室内の道具を収納する位置が決められていなかったり、あいまいだったりすると整理整頓の習慣付けが困難になります。子どものなかには、進級に伴ってルールや約束の変更があると柔軟に対応できない場合があります。また、落し物をよくする子どももいます。形や模様、色などを記憶することが苦手であると、自分の名前が書いてあっても、自分のものとは思えずにそのままにしていることもよくあります。



キーワードは、片付ける物と片付ける場所をはっきりと

子どもの机の周りが雑然としている場合は、整理整頓（片付け）の方法を指導する必要があります。

○教室全体では

- ・何をどこに片付けるか、目印などを付けて知らせます。

○個人の持ち物では

- ・机の引き出しや整理箱にラベルをはって、片付ける「物」と「場所」を書いておきます。
- ・机の引き出しの中は、整理しやすいように箱を活用するなどして仕切ります。

○プリントの整理では

- ・学習プリントは「ノートにはる。」、連絡プリントは「持って帰る。ファイルに入れる。」など、配布と同時に整理できるように配る時間や整理の仕方を工夫します。

○落とし物については

- ・落とし物箱に入れて保管し、1週間に1回程度必ず確認の声かけをします。
- ・日頃から物を大切に扱うように指導しておき、物を落とした場合は、すぐに拾うことを習慣付けるようにします。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

○整理整頓が苦手な子どもは、いろいろな物が机の周りに散乱してしまいます。まず、机の周りの道具を一箇所にまとめることから始めます。自分の道具を入れる少し大きめのかごを机の横に置きます。それができると「学習の道具」「それ以外の道具」のように分けます。

○落とし物の多い子どもは、物に必ず名前を書くことを習慣付けるとともに、家庭にも協力をお願いします。

指示を みんなに伝えるために

○こんなときは

授業中に、先生が説明や指示をしても、それをしっかり聞いていないと、全員に徹底させることが難しくなります。そのような状態が繰り返されると、学習活動がスムーズに行えなくなります。

●それはどうして？

学級全体が先生の話の間こうと集中していないためです。

全員が集中して聞かなくなると、

○先生の話を見かずに、私語が多くなります。

○授業中に手遊びをしている子どもが増え、注意する回数も多くなってきます。

○問いかげに對して、手を挙げて答える子どもが減り、一部の子どもだけの学習参加になりかねません。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

○全員に話す前に「A君、今から話をするからよく聞いてね。」と聞く構えをつくれます。

○一斉に指示した後に、そばに寄って肩に触れたり念押ししたりして、再確認します。

キーワードは、まず全員を集中させる工夫

- 「おへそを先生の方へ向けて、それから目は先生の口を見てください。」など具体的な言葉で全員が先生の話を書く姿勢をつくるようにします。
- 学習のめあてをはじめに知らせます。
 - ・「今から遠足の準備について話します。」など、あらかじめ何を話すか知らせて、話を聞く心構えをつくるようにします。
- 指示は、短くします。
 - ・「今から本とノートを出します。」「出しましたか?」「次に鉛筆を持って書いてください。」など、指示→動作→指示→動作というように指示は、一つの話で一つの内容にします。
- 一度指示したことは、変えないようにします。
 - ・学習の流れや全体を見通して指示をします。途中で状況が変わっても極力、指示した内容は変えないようにします。指示した内容を変えると子どもが混乱するからです。
- 子どもの活動中には、指示を出しません。
 - ・活動前から分かっていることは、初めに指示しておきます。
 - ・活動中に指示を出す時は、活動を止めてから指示を出します。



時間やルールを守るために

○こんなときは

授業が始まっても、子どもたちが教室へもどって来なかったり学習の準備ができていなかったりする場合があります。また、先生が教壇に立っているのに子どもたちは話をやめようとしない、休憩時間と授業時間の区別がつかずに緊張感や活動意欲が薄れている場合があります。

●それはどうして？

- 学級集団に必要な行動のルールが、はっきりしていますか？
- 集団生活に必要な「やりたくなくてもやらなければならないことやしたくてもしてはいけないこと」が全員に理解されていますか？
- 子どもたち自身が見通しの持てる学習や生活ができていますか？
それは、学校生活の時間や学級のルールを守る意識が薄れてきたからです。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

予測できないことや変化に対して、うまく応じられない子どもがいます。そのような子どもに対しては、

- 紙や黒板などを活用してスケジュールをはっきり知らせます。
- スケジュールの変更は、できるだけ早めに知らせておきます。
- 活動の終わりの時間をはっきりと知らせ、変更しないようにします。

キーワードは、まずルールを確立させること

学級集団の実態や課題を踏まえ、時間を守ることを通して、学級のルールの必要性や重要性に気付かせていくことが大切です。

○ルール確立のための方法として

- ・ルールを明確に示します。

ルールは、守るべき最低限のマナーです。子ども同士の衝突の回避や安全の確保に欠かせないものです。

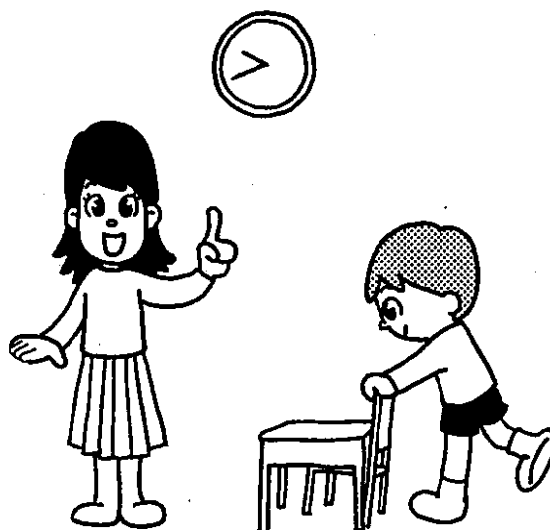
- ・叱る基準を示します。

迷惑をかける行為、繰り返し行う怠惰な行為、危険を及ぼす行為などに対しては、きちんと叱ることが大切です。なぜ叱られたかを説明して納得させることも必要です。

- ・まず時間に対してのルーズさから改善していきます。

○ほめることを通して、ルールの定着を図ります。

○決まったルールは、先生と子どもたちで力を合わせて守るように努力しましょう。



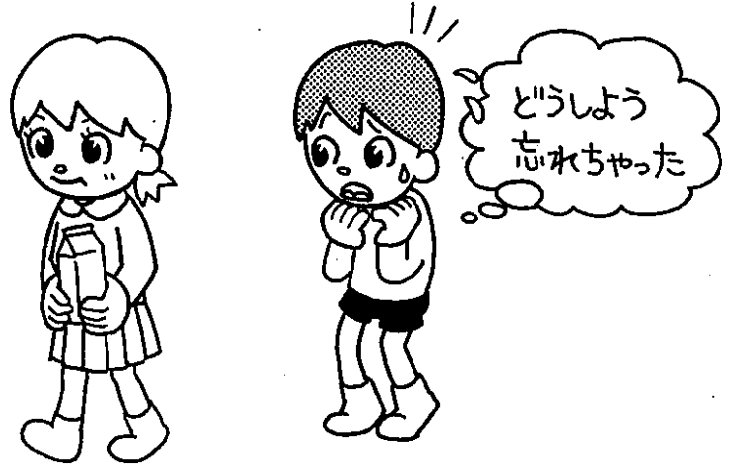
忘れ物を少なくするために

○こんなときは

よく忘れ物をする子どもがいます。何度注意してもなかなか忘れ物が少なくならず、忘れ物をしたために意欲的に授業に取り組めなかったり、授業中ぼんやりと過ごしてしまったりしている場合があります。

●それはどうして？

本人は聞いて覚えているつもりでも注意力と記憶力の弱さなどのために、すっかり忘れてしまっていることもあります。また、連絡帳を保護者に見せるのを忘れてしまったり、準備したのに持ってくるのを忘れてしまったりすることもあります。



◎ 支援が必要な子どもへの配慮

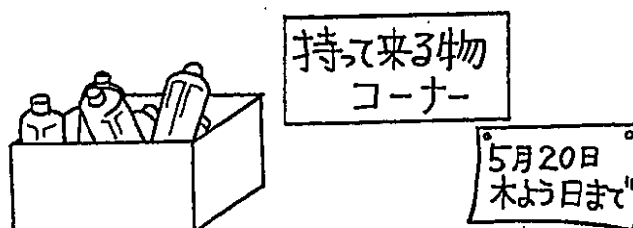
- 連絡帳の記入を習慣付けるようにします。保護者に連絡の内容が確実に届くように声かけするなどの工夫をします。必ず必要な連絡は、電話などで保護者に直接連絡し、確認します。
- 忘れ物をしなかった日は、連絡帳にシールをはって保護者に伝え、家庭でも本人のがんばりをほめてもらうようにします。

キーワードは、連絡帳の活用とゆとりある準備期間

○学習道具の準備は、毎日の繰り返しにより習慣化されます。入学当初より少しずつ身に付けていくように工夫していきます、根気強く繰り返し行うことが必要です。

○先生の話聞きもらして、忘れ物をする場合があります。忘れ物を減らすためには、連絡帳を有効に活用しましょう。(31ページの下校指導を参照)

○図画工作で使用する材料などは、一週間ぐらいの時間的な余裕を持って持参する日を知らせませす。黒板など分かりやすいところに「持ってくる物コーナー」を作り、持ってくる物、持ってくる月日を掲示し、いつでも確認できるようにするとよいでしょう。また、持ってきた人を確認し、忘れた場合には、必要に応じて再度連絡します。



○学級通信で一ヶ月くらいを見通した学習予定を知らせ、前もって家庭での協力をお願いするなどの配慮も有効です。

○どうしても忘れてしまった場合の対処の方法、例えば「先生に言う。」「先生から借りる。」「別の課題をする。」などについても、具体的に知らせておいたほうがよいでしょう。担任の先生が余分に準備するなどの配慮も必要ですが、忘れ物を少なくし、気持ちよく学習に取り組むことができるためには、前日に学習道具の用意をする習慣を付けるように家庭にも協力を依頼します。

集中して視写ができる ために

○こんなときは

授業中に、先生が黒板に板書していても、よそ見をしたり、書き写すのが遅かったり、最後まで書くことが困難な子どもがいます。

●それはどうして？

学習に参加する構えができていない子どもや、説明や指示をしている途中で集中力がなくなって話を聞かなくなる子どもがいます。

また、視写するのに時間がかかり指導の流れについていくことができずに取り残された気持ちになって意欲をなくす子どももいます。

そのような子どもたちにとって、集中して視写できるようにちょっとした工夫をしてみましょう。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

書くことが困難な子どもの配慮は、書く量を減らして達成感を持たせることです。

○書くスピードが遅い子どもには、あらかじめ「先生の合図があったら書くのをやめてもいいこと」を伝えておきます。

○「ここからここまで」「これとこれ」「赤線を引いた所だけ」など書く範囲を具体的に指定します。

○本人の実態に即して、事前に書き方を担任と約束しておきます。

キーワードは、声かけのタイミング

○まず、全員を書くことに集中させることが大切です。

例

①あらかじめ何をするかを知らせて、聞く心構えをつくります。

「今から黒板に○○について3つ書きます。」

②子どもの目や耳が先生の方を向いているか確かめます。

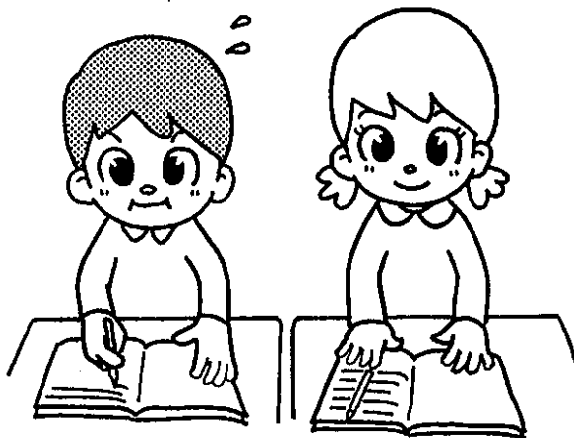
「よそ見しているのは、まだ3人」などと言いながら集中させます。

③途中で集中力がなくなったら、その場で書くのを止めて全員が集中するのを待ちます。

④書き終えた子どもは、顔を上げて終わったことを目で知らせるように促します。先生は、目でそれに応えるようにします。

⑤最後まで書くことが難しい子どもには、タイミングを見計らって「○○まで書いたら鉛筆を置いてください。」と区切りをつけさせます。

⑥「それでは、次のことを言います。みんな鉛筆を置いて、先生の口を見てください。」と続けます。



II

集団行動に困難を示す子どものための学校生活の一日の流れに沿った指導・支援の工夫

登校指導

一日のスタートがスムーズにいくために

健康観察・朝自習

子どもの様子を簡潔に把握するために

給食指導

楽しく給食を食べるために

給食当番・掃除当番

係の仕事に取り組むために

昼休み

昼休みを楽しく過ごすために

係活動

係活動で協力し合うために

帰りの会

一日がよい雰囲気終わるために

下校指導

連絡帳を書く習慣をつけるために

学校行事

運動会・学習発表会に混乱なく参加するために

なかまづくり

友だちと仲良く過ごすために①
友だちと仲良く過ごすために②
友だちと仲良く過ごすために③

このアイデア集では、各ページに支援内容の項目を「～ために」として表題に掲げています。子どもの実態やニーズに応じて必要な項目からお読みください。

登校指導

一日のスタートがスムーズにいくために

○こんなときは

一日の学校生活を気持ちよく始めるためには、登校してから朝の会が始まるまでの時間の過ごし方が大切です。朝の会が始まったときに、荷物の片付けが終わっていなかったり、全員が着席するのに時間がかかったりするとスムーズに授業が始められません。朝のあいさつも気持ちよく一日を始めるために必要なことといえます。

まずは、登校後、学校に来てからの荷物の片付けや学習の準備を習慣付けましょう。

●それはどうして？

物の位置や方向を理解することが難しいと、物を整理して片付けることが苦手で、物をどこに置けばよいのか分からなくなることがあります。また、どれだけの作業をすればよいのか覚えていないと、途中で遊びに行ってしまうこともあります。活動に見通しを持つことが難しいと、片付けに取りかかろうとしない場合があります。さらに、片付けの途中で他のことに注意がそれ、最後まで取り組めない場合もあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 机の上に小さな個人カード（チェック表）をはったり、持たせたりすると自分で確認できます。
- みんなと同じ量の片付けをすることが難しい場合は、できるところから一つずつ定着させていきます。
- 片付けの場所を覚えるために、名前シールやキャラクターシールなどを活用することも有効です。

キーワードは、朝の流れの確認と、「いつ」「どこ」「何」を分かりやすく示すこと

○登校後にしなければならないことを分かりやすく知らせます。

- ・活動の流れや片付けの順番、片付け場所が見て分かるように文字に絵を加えて示し、教室に掲示します。
- ・個人用荷物の片付け場所のロッカーには、名前シールをはります。
- ・連絡帳や水筒などは、入れるかごを用意することで、どこに片付ければよいのかを分かりやすくします。

登校後する

- 連絡帳 →先生の机の上
- 水筒 →棚の上
- 学習道具 →机の中
- かばん →棚の中



- 終わった人→遊びに行ってもよい。
雨の日：部屋で静かに遊ぶ
晴れの日：運動場で遊ぶ
- 1回目のチャイムが鳴ったら、自分の席に座って待つ。

○根気よく繰り返して行い、できたことをほめます。

- ・日常的な生活習慣は、毎日根気よく繰り返し指導することが大切です。
- ・できなかったことを注意するよりもできたことをほめましょう。

子どもの様子を 簡潔に把握するために

〈健康観察〉

○こんなときは

一日の始まりは、子どもの様子をしっかりチェックすることから始まります。朝の体調や気分が行動を左右します。顔色、表情、話し方、動作などを担任の目で把握しておきます。何かとあわただしい朝の時間、簡単チェックポイントを紹介します。

●それはどうして？

○顔色がすぐれない・・・睡眠不足、朝食ぬき、体調不良など。

生活リズムの乱れは要注意！

睡眠、食事などの生活リズムが乱れてくると体調もくずれがちです。遅刻、居眠り、登校しぶりなどにもつながります。家庭と連携して把握するように努めます。



○表情が普段と違う・・・緊張、不安、対人トラブルなど。

いつもの表情や顔を知っておくことが大切！

ほがらか？暗い？おだやか？けわしい？・・・

「あれっ」いつもと違って見えたら、一声かけて状態を確認します。



○行動が目立つ・・・興奮、疲労、生活リズムの変化など。



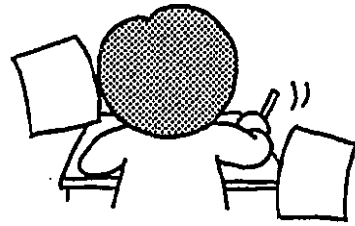
目配り・気配りを!

そわそわと落ち着かない、だらだらと動作が緩慢である、やたらと大きな声をあげるなど、普段にない言動がみられた場合は、登校から下校までの様子をみます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

体調不良を訴えることや目立った言動が続く子ども、保健室利用や欠席の多い子どものなかには、情緒面や行動面での困難さを持っている場合があります。個別の配慮や支援の方法を考えてみましょう。

- 個別に声をかけて状態を把握する時間をつくる。
- その日の様子などを記録し、傾向を把握する。
- 保護者や養護教諭と連携し、情報を共有する。



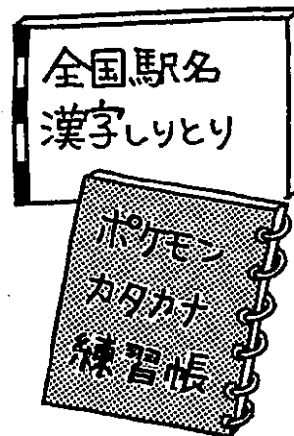
〈朝自習〉

○こんなときは

自習がきちんとできるようになることは大変難しいことです。先生目が届かないのでトラブルも起こりやすい時間です。一人一人が自分の課題に集中して取り組めるような工夫が必要です。特に、みんなと同じ課題では取り組めない子どもには、別課題を与えることも一つの方法です。

工夫のポイント

- 自分の力で比較的簡単にできるもの
- 単純なドリル練習だが興味を持って取り組めるもの
- 時間内に必ず終わることのできる分量のもの



楽しく給食を食べるために

○こんなときは

好き嫌が多く、給食にほとんど箸をつけることができない子ども、好きなものばかりお代わりをしてしまう子どもたちの給食には頭を痛めるものです。

●それはどうして？

食生活の基本は家庭にあります。これまで苦手なものをあえて食べた経験がない子どもたちにとっては、配膳されたものを時間内に食べ終えることが難しい場合があります。支援の必要な子どものなかには、感覚（臭覚・味覚・触覚「食感」）の敏感さから特定の食品を口にすることに抵抗を示す場合があります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 偏食については、食生活の改善を目標にするのではなく、「苦手なものを一口がんばって食べる自己コントロール力を育てる機会」であると考えて給食指導をします。
- 指導に際しては、特別な見方をするのではなく、学級の給食のルールをクラスの一員として守る姿勢を育てていきます。
- 家庭との共通理解のもとに、連携しながら支援を進めていくことも大切なポイントです。
- アレルギー体質のために食物に制限のある子どもがいます。事前に食べられないものを把握しておき、本人や学級全体で理解し、対応できるようにしておきます。

キーワードは、学級での給食のルールを決める

○お代わりは、配膳されたものを全部食べてからにします。

- ・同年齢の子どもたちでも、体格や体調によっても食べられる量には、個人差があります。配膳を少量にし、お代わりができるシステムにします。始めに配膳したものを食べ終えた子どもからお代わりをするルールを徹底します。

○量の調節は「いただきます」の前にします。

- ・その日の体調やメニューに応じて時間内に食べることでできる量に見通しを持たせることが大切です。支援の必要な子どもたちは食事を始めてからでは、修正がきかない場合があります。「いただきます」の前に必ず確認をします。

○どのメニューも一口は食べてみます。

- ・苦手なものは一口、場合によってはなめる程度から始めます。本人なりのがんばりが認められた場合は大いにほめ、家庭でもできるように広がっていきます。

○デザートは、最後に食べます。

- ・一般的な食事のマナーを意識させます。デザートを励みに食事をするようにします。

※食事などの基本的な生活習慣に関する指導は、低学年のうちからの取組が有効です。



係の仕事に取り組む ために

○こんなときは

決められた係の仕事を忘れてしまい、準備から片付けまでの過程で個別に支援が必要な子どもがいます。また、掃除中にほうきを持つと振り回してトラブルを起こしてしまう子どももいます。

●それはどうして？

係活動の意義や仕事内容が理解できていないために自分の行うべき行動がはっきりせず、周囲の雰囲気にならされてしまっていないでしょうか。

支援の必要な子どもの中には、集団活動のルール理解や友だちと協力して活動することが苦手なため、状況に応じて一斉に作業することが難しい場合があります。不器用さのためにほうきやぞうきん絞りなど道具の操作がうまくできないことも考えられます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

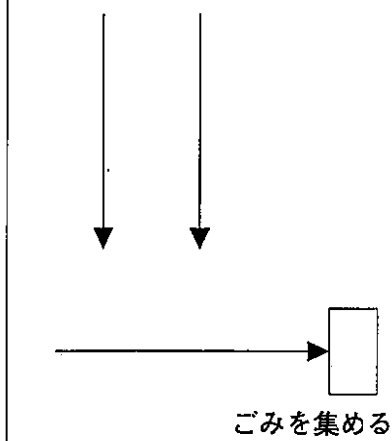
- 毎回、決まった手順でできる仕事に取り組ませます。
- 興味・関心のある領域、得意な領域の仕事に取り組ませます。
- 係の仕事を覚えるまで、理解しやすい仕事（例：給食係であればストロー係、掃除当番であれば、1列目の机といすを運ぶなど）を具体的に指示して取り組ませます。係の仕事ができた時は、その都度ほめて、仕事への意欲付けを図ります。
- その日の給食献立のメニューによって仕事分担が変わる場合は、役割を準備前に伝えて確認しておきます。

キーワードは、仕事の手順や内容を分かりやすく提示すること

掃除の仕方

- ① 床を掃く、拭く
- ② 机・椅子を運ぶ（前半分）
- ③ バケツの水を換える
- ④ 床を掃く、拭く
- ⑤ 机・椅子を運ぶ（後半分）
- ⑥ ごみを集める
- ⑦ 道具を片付ける
- ⑧ 最終チェック

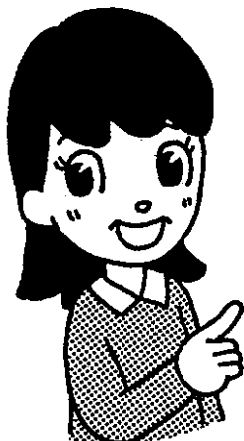
教室の掃き方



掃除の仕方の提示例

- ① 作業の手順を視覚的に提示します。
イラストでの提示も効果的です。
高学年では、「掃除チェック表」を活用して作業の確認をしてもよいでしょう。
- ② 床を掃いたり、拭いたりする方向も示しておきます。
ごみを集める場所を床にテープで四角に囲っておくと目的を持って作業に取り組むことができます。

おかず係さん、
一人分の量は
お玉一杯ね。



熱いのでお盆に
二人分ずつのせ
て配ってね。

昼休みを楽しく過ごす ために

○こんなときは

授業中よりも休み時間など、先生の目の届かないところで友だち同士のトラブルが起こりがちです。

●それはどうして？

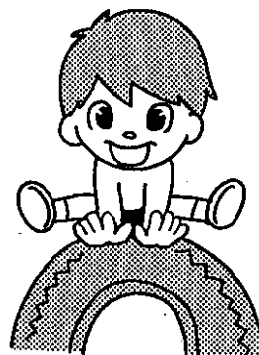
- 集団の遊びに参加したいけれども、輪の中に入れずに暴力を振るうなど間違った行動を起こしてしまうことがあります。
- 遊びに熱中しすぎて、ルールを守れずに他の子どもとトラブルになることもあります。
- 子どもによっては、無理に遊びに誘われたことがストレスになることがあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- パニックが起こった場合は、静かな場所へ移動し、パニックが落ち着いてから話を聞くようにします。
- 問題行動を繰り返す場合は、事前の対応をしっかりと、まずは一つずつできそうな約束を決めて、守っていくことができるように支援していきます。
- 一人でゆっくりと好きな本を読んだり、教室で静かに過ごしたりすることで安心感を得られる子どももいます。場合によっては、一人遊びも受け入れます。

キーワードは、安心できる居場所づくり

- トラブルが起こった場合は、すぐに指導します。子どもが落ち着いて話したり聞いたりできる相談室や保健室などに移動して、状況を確認しながら行動を振り返らせるようにします。
- 帰りの会などで、昼休みの遊びで楽しかったことなどを話し合う場を持ち、次につながる行動ができるように支援します。
- 学級活動などで、集団で楽しめるゲームや全員が参加できる活動を取り入れ、昼休みの遊びへ発展できるように仕組んでいきます。



係活動で協力し合う ために

○こんなときは

清掃活動などでは、先生が見ていない場面で、トラブルが起きることがあります。このような状態がみられたときは、早期に対処し未然にトラブルを防ぐ工夫をします。

●それはどうして？

○力関係による都合のよい分担を決めてしまっていることがあります。

- ・仕事の軽重や面白いかどうかを基準に多数決で決めていませんか。
- ・用具や場所は、早いもの勝ちで決めていませんか。
- ・その都度じゃんけんで決めていませんか。

このような決め方は、弱い子が強い子に仕事を譲るようになります。

気に入らない子どもに仕事を押し付けてしまうことにもなりがちです。

○一生懸命している子どもが認められていないことがあります。

- ・分担場所に目が行き届かないことから、先生は結果で判断しがちです。

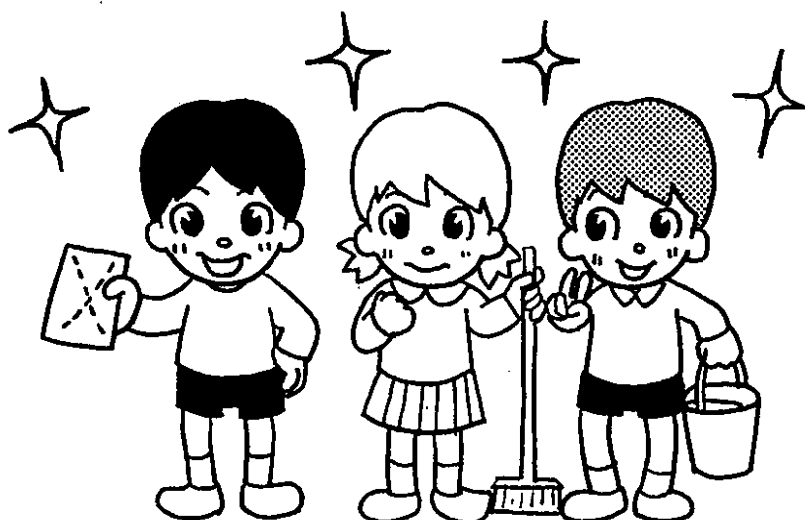
少ない人数のがんばりによって仕事をこなしていると、多くの子どもがさぼっていても全体がほめられることがあります。浮かない顔をしている子どもがいるときは、活動の過程を観察したり聞いたりして状況を把握しておくことが大切です。

キーワードは、分担と協力

- 掃除の場合であれば、「片付ける」「掃く」「拭く」「ごみを集める」などの基本的な動作の流れを絵カードなどで表示しておきます。
- 全員が基本的な動作の流れを体験できるようにしておきます。
- 実態に応じて、作業範囲、作業時間、役割分担をはっきりさせておきます。
協力関係がうまくいくようにグループ構成を工夫します。
- 今日の掃除の重点（ねらいや場所）をお互いに出し合います。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 目標を持たせて取り組ませましょう。
- 前もって、役割分担表と活動のねらいや範囲を決めておきます。
支援の必要な子どもには、「ごみを50個拾う。」「廊下だけを掃く。」など、目標を決めて活動を促します。



一日がよい雰囲気 終わるために

○こんなときは

帰りの会は、今日一日を振り返り、自分自身のことや友だちのこと、学級全体のことを考えるよい機会です。明日の予定が分かり、明日も学校へ来ようと期待を抱かせる大切な活動でもあります。

しかし、一日の振り返りがいい加減になったり相手を攻撃するようになったりすると、学級の雰囲気が崩れることがあります。

●それはどうして？

- 低学年では、自分を客観的に見ることが難しく、自己中心的に考えがちです。
- 高学年では、少数の仲良しの友だちとの関係を大事に守ろうとします。
- 論理的に考えることができず、感情的になることがあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 今日のめあてを具体的に決めてカードなどに書き、持たせておきます。
- 帰りの会で、個別に今日のめあての確認をします。守ることができた場合は、大いにほめ、視覚的に分かるシールなどで評価します。

キーワードは、互いのよさを認める場づくり

○「よかった探し」をします。

- ・例えば、給食当番で重い食缶を運んでいるときに、友だちが手伝ってくれて助かったことを帰りの会で発表するなどです。
- ・特定の子どもや仲良し同士に偏らないように、「グループから一人」などと決めて、一定期間で全員が発言できるようにします。

○好ましい行動を知らせます。

- ・例えば、友だち同士でトラブルが生じたときなどは、善悪の判断だけで終わらせずに「こうしてくれたらよかったね。」と、望ましい行動のモデルを示します。

○好ましい行動を広めます。

- ・学級日誌などに「今日のよかったさん」として、心温まる行為やがんばっている様子を書き、それを学級通信などで紹介することで広めていきます。



連絡帳を書く習慣をつけるために

○こんなときは

連絡帳を書くのは、明日の予定が分かり、学習用具や宿題忘れをしないようにするためです。しかし、書き始めるまでに時間がかかったり、板書を写すのに時間がかかったりして最後まで書けない子どもがいます。

連絡帳を書いても、乱雑なため何を書いているのか分からない、連絡帳は書いているのに、確かめができないために忘れ物をすることもあります。

●それはどうして？

連絡帳がうまく書けない理由には、次のようなことが考えられます。

- ・黒板に文字がたくさんあると、どこを見ればよいか分からなくなる。
- ・音、光、物、人など他の刺激に注意がそれて、集中できない。
- ・黒板の文字を記憶して、ノートに写すことが苦手である。
- ・時間内に書くことや正しく書くことが難しい。
- ・確かめをしていないために、家に帰るまでに伝える内容を忘れてしまう。

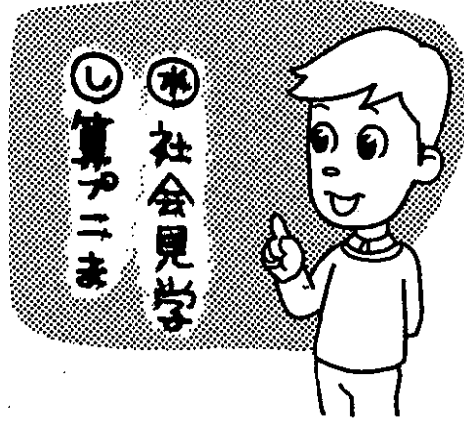
◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 連絡を書いたプリントを準備して、手元に置いて書かせます。
- 書くことが困難な子どもには、量を減らしたり、準備したプリントをノートにはらせたりして、書くことの負担を減らします。

キーワードは、書き方の工夫と確かめ

○書き方を形式化して、見て分かりやすくします。

- ・板書は、連絡帳に書きやすいように形式を決めて書きます。
- ・宿題を ㊦ などのシンボル文字にして使ってみます。
- ・大切な項目は色分けします。



○注意を集中させます。

- ・書くことが苦手な子どものそばで声かけして書くように促します。
- ・連絡事項は、一項目を板書する→ ノートに書く→ 確かめる、を繰り返します。
- ・「○分まで書きましょう。」と時間を決めます。

○家庭で確かめるためにチェックします。

- ・連絡帳にチェック表をはり、準備や宿題が終わったら、保護者にサインをもらったり、自分で○をつけたりさせます。

※配布するプリントは、実物を黒板に掲示すると確かめができます。

※週末に、次週の予定と学習用具を書いたプリントを準備し、連絡帳にはっておくと、一週間の見通しが持てます。

運動会・学習発表会に 混乱なく参加するために

○こんなときは

みんなと一緒に行動できなかったり、集団から離れて練習に参加しなかったりして困ることがあります。本番になってパニックを起こすなど指導に苦慮することもあります。

●それはどうして？

- 未経験な行事には見通しが立たず不安です。特に低学年では、行事の意図や内容がイメージできないで混乱してしまいます。
- 不器用さなどが原因でうまくできないという苦手意識が、やる気のなさに見えることがあります。
- 空間の中での位置や方向を理解することの苦手さから、集団での動きや場所の理解が難しい子どもがいます。
- 騒音や雑音、長時間の緊張や大きな集団が苦手な子どももいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- サポートしてくれる友だちや先生を決めて一緒に活動させましょう。
- スケジュールや演技図などをカードにして、持たせて確認させます。
- がまんができない場合は、無理をしないで集団から外して休憩させます。

キーワードは、事前の予告を視覚化

○スケジュールは、事前に知らせ、見通しを持たせます。

- ・練習日程、時間割変更、練習内容の予定や終わりの時間などをカードにして知らせておきます。

○演技や隊形は絵や図にしたり、具体物を目印にしたりして知らせます。

- ・自分の場所が目で見えて分かるように、演技図などで説明したり、個別に持たせたりします。
- ・「あの木の前に立つのですよ。」など具体的な目印を知らせます。

○苦手なことが軽減できるように工夫をします。

- ・苦手なものがあるときは、一度にたくさんのごとをすると混乱します。
スモールステップで練習します。
- ・台詞のやりとりなどが難しいときは、一人でできる演技を工夫します。
- ・ピストルの音が苦手なときは、ピストル以外のものを使用したり、耳栓をしたりします。



《運動会のダンスのスモール ステップでの練習（例）》

音楽を聴いて慣れる



動きを覚える



音楽と動きを合わせる



隊形移動をする

友だちと仲良く過ごす ために①

○こんなときは

会話や遊びに入っていけなくて孤立したり、互いの思いが通じなくてトラブルになってしまったりすることがよくあります。

●それはどうして？

あいさつや返事、表情など、日常生活の中で身に付くことが定着できない子どもがいます。生活様式や集団遊びなどの変化により、人との関係づくりを学ぶ機会がなくなったことも原因と考えられます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

○「ありがとう。」「ごめんなさい。」「これ、借りてもいい？」「僕も入れて。」こんな一言がなかったためにトラブルが起こることがあります。

具体的な練習が必要です。

- ・伝えたかった気持ちを確認し、一緒に言うようにします。
- ・場面や役割を設定して練習します。
- ・「はい」「いいえ」をはっきり言うようにします。

キーワードは、あいさつと返事

○あいさつは、友だちづくりの第一歩です。

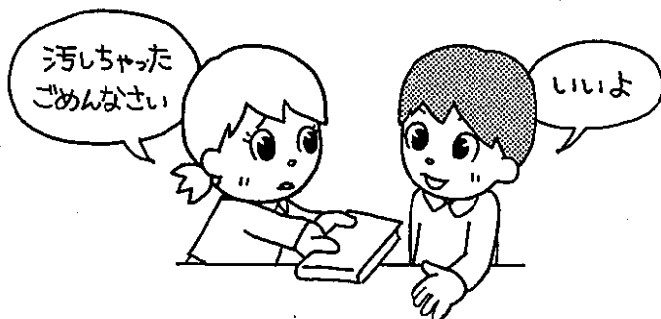
- ・あいさつや返事は、対人関係を築く第一歩であり、社会的な自立に必要な生活能力の一つです。気持ちのよいあいさつが仲良しの始まりです。

○当たり前のことをていねいに指導します。

- ・人と顔を合わせるとあいさつをする。失敗をしたときは謝る。何かしてもらったときはお礼を言う。当たり前のことのように、ていねいに繰り返し指導して習慣化します。

○よい雰囲気大切にしましょう。

- ・気持ちのよいあいさつができたときには、ほめます。クラスみんなでいい気分を共感できるようにします。



友だちと仲良く過ごす ために② 〈トラブルが起こる前に〉

○こんなときは

友だち同士、嫌なことを言ったり、手を出してしまったりして、けんかを繰り返すことがあります。

●それはどうして？

次のようなことから、友だちと適切なかかわりができずトラブルになることがあります。

- ・相手の立場に立って考えることが難しい。
- ・気持ちや行動のコントロールがうまくできない。
- ・自分の思っていることをうまく伝えることができない。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 子どもの特徴や行動を予測して、態度や気持ちが変わりそうだと直感した時「これ以上言うと、けんかになるよ。」とその子どもに応じた声かけをしてみます。
- 一緒に遊びたいけれどうまく言えず、友だちにも分かってもらえずに、手が出てしまうことがあります。「一緒に遊びたいです。」「入れて。」など気持ちの伝え方を練習します。

キーワードは、子ども理解と行動の予測

○個々の子どもの起こしやすいトラブルを把握しておきます。

- ・休み時間や下校時間など先生の目の行き届かないところで、友だちとのトラブルが結構多いものです。トラブルが起きた場合のことを予測して、事前に対応策を考えておきます。

○友だちとの好ましいコミュニケーションの方法を教えます。

- ・ちょっとした誤解や思い込みからトラブルになることがあります。日頃から、分からないことは先生や友だちに聞いたり、自分の気持ちを話したりできるような雰囲気づくりをしておくことも大切です。

○子どもたちの人間関係をチェックし、トラブルを避ける工夫をします。

- ・席替えの際、トラブルを起こしやすい子ども同士は席を離すなどの工夫をすることが大切です。



友だちと仲良く過ごす ために③ 〈もし、トラブルが起こったら〉

○こんなときは

友だちと一緒に過ごしたいのだけど、つい、嫌がることを言ったりしたりして、トラブルを起こしやすい子どもがいます。

少しの我慢ができなくて、わがままを通そうとしたり、心無い言葉を言って場の雰囲気をつぶしてしまったりする子どももいます。

●それはどうして？

対人関係でのトラブルを起こす理由には、次のことが考えられます。

- ・周囲の状況や相手の気持ちなどを読み取ることが苦手である。
- ・自分の気持ちを言葉や行動でうまく伝えることが難しい。
- ・活動や遊びのルールが難しく、どう行動してよいか分からない。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 興奮状態が続いている時は、ひとまずその場から離し、気持ちを落ち着かせます。深呼吸させ、「悔しかったね。○○したかったんだね。大丈夫だよ。」など、本人の気持ちを汲み取るような言葉かけをします。
- 危険な行動に出そうな場合は、短く明確な声かけをして制止します。
- 話が聞ける状態になったら、状況を一緒に振り返り、解決策を考えます。言葉では、十分に表現できない子どももいます。状況を順序どおりに話し、その時の気持ちを代弁しながら確認します。
- 教室に戻す前に、自分だけが責められたという印象を持たせないようにします。

キーワードは、毅然とした姿勢と温かいハート

○まずは、ひと呼吸して落ち着きます。

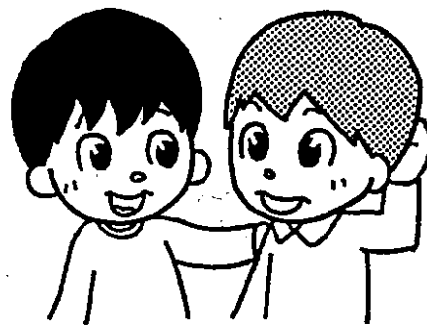
- ・トラブルが起こると集団全体が興奮気味になります。まずは、ひと呼吸して、状況を受け止めましょう。興奮した状況に影響されて感情的にならないようにします。

○状況はみんなで確認し指導は個別に行います。

- ・トラブルは先生の目の届いていない時間帯や届きにくい場所でよく起こります。トラブルが起こった場合は、周囲にいた子どもたちに確認し、指導は個別に行います。

○毅然とした姿勢と温かいハートの両方が大切です。

- ・「ルールは守る!」「ダメなことはダメ!」ここぞというところは、毅然とした姿勢で臨みます。トラブルの改善には先生の厳しさも必要です。しかし、厳しさが通じるのは信頼関係が前提にあるからです。普段の落ち着いた状態の時に、温かいハートフルな関係を心がけます。



III

学習に困難を示す子どものための 各教科等の指導・支援の工夫

国語 話す i

分かりやすく話すことができるために

国語 話す ii

助詞が正しく使えるようになるために

国語 読む

音読が正しくできるようになるために

国語 書く i

文字を正しくていねいに書くために

国語 書く ii

特殊音節が書けるようになるために

国語 書く iii

漢字を覚えて書けるようになるために

国語 作文

作文が書けるようになるために

国語 板書の視写

視写しやすい板書の工夫

国語 テスト

抵抗なくテストに取り組むために

算数 計算

計算問題ができるようになるために

算数 文章題

文章題ができるようになるために

算数 図形

図形問題ができるようになるために

社会

資料を正しく読み取るために

理科

実験や観察がスムーズにできるように

体育

運動を楽しくできるようにするために

音楽

リコーダーをうまく演奏するために

図画工作

楽しく表現活動をするために

総合的な学習の時間

インタビューがうまくできるように

このアイデア集では、各ページに支援内容の項目を「～ために」として表題に掲げています。子どもの実態やニーズに応じて必要な項目からお読みください。

分かりやすく話すことができるために

○こんなときは

「あれ、それ、などの指示語だけで表現する。」「言葉を適切に使って表現することが難しい。」「話が長くなると内容が分からなくなり混乱する。」といった子どもがいます。聞いたことは理解でき、話したいことがあるにもかかわらず、聞き手に分かるように話すことがうまくできないのです。

●それはどうして？

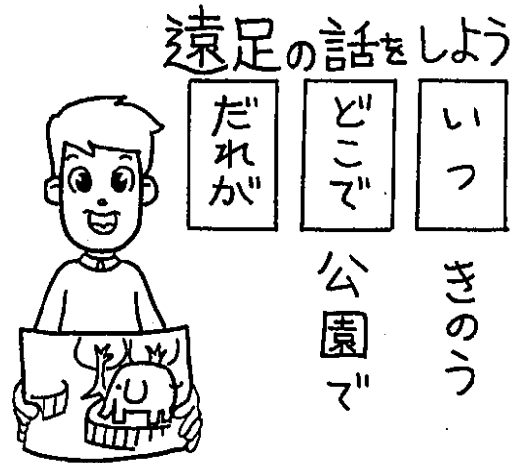
脈絡のない話し方になるのは、話したい内容を順序立てて、適切な言葉を選びながらうまくまとめることが難しいからです。獲得している言葉が少なかったり言葉を思い出すことが難しかったりすると、適切な言葉を選んで表現することが難しくなります。「過去」「現在」といった時間経過の把握があいまいだったり、因果関係が理解できていなかったりすることから起こる場合もあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 話し始めや途中で話が詰まったときには、先生が分かる範囲で補足してあげると、後が続けられます。
- 実物や絵、写真などを活用して、話が続けられるように工夫します。
- 話した内容を先生が書き取ったり、抜けている事柄について質問したりすることで、内容が抜けていることに気付かせます。その後に先生が補足しながらうまく話せるように工夫します。

キーワードは、話す内容の整理と確認

○日頃から情報を整理する習慣を身に付けるためには、「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」「どうした」などの項目で話したいことを整理させ、文章化させるのもよいでしょう。項目をカードにしておくといつでも使えます。



○時系列にしたがって「はじめに」「次に」「最後に」などの言葉を使ったり「事実」と「感じたこと」を混同しないように整理させたりしてから話させましょう。話し方のポイントを紙に書いて、いつでも子どもの目に触れる場所にはっておきます。

○話すことに対して周囲を気にしすぎたり、苦手意識を持ったりしないように、最後まで話を聞くなど学級で約束事を決め、日頃から話しやすい学級の雰囲気づくりに努めます。

助詞が正しく 使えるようになるために

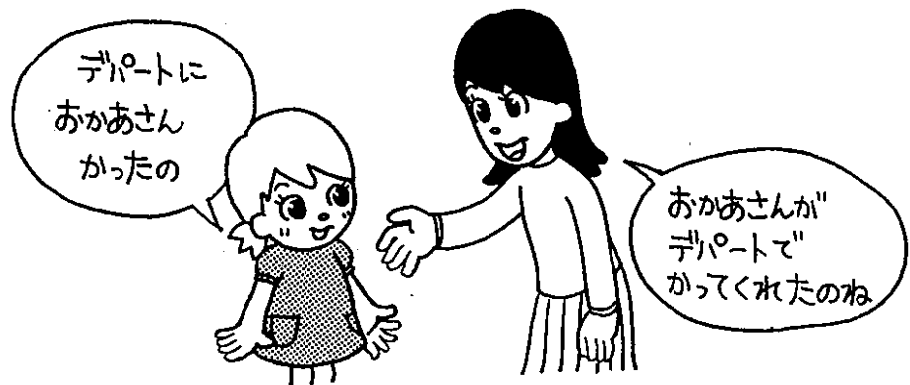
○こんなときは

会話の中で助詞の使い方を間違える子どもがいます。

助詞がうまく使えないと、一つ一つの言葉の意味は分かっているけど、助詞によって結ばれた語と語の関係から生じる意味の理解が難しくなります。文を読んだり聞いたりする場合にも、助詞の理解や使い方があいまいだと内容の理解が難しくなります。

●それはどうして？

助詞は音として持続して聞こえる時間が短く、文の中で聞き落としやすくなります。助詞は文の中で人と物事との関係を表す働きをしているので、関係性が十分につかめていないと、助詞を正しく使うことはできません。



キーワードは、ゆっくり正確に話す

- 子ども自身が知っている言葉を使って話すようにします。
- 明瞭な発音でゆっくり話すようにします。
- 短い文で、できるだけ主語、述語を整えて話すようにします。
- 何について話すのか、いくつの事柄を話すのか、話を始める時に前もって知らせておきます。話し手に注意を向けさせてから、話し始めます。また、「一つ目は、・・・二つ目は、・・・」といった話し方で、話す内容を簡単にまとめて話します。



◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 日頃の会話を通して、保護者も先生も意識的なかわりをするのが大切です。子どもの話を聞いて、正しい助詞を使って言い返してあげたり、「だれが」「どこで」などの質問をしたりして、適切な助詞を使わせながら文章化させます。
- 助詞の使い方に誤りがみられる子どものなかには、聞いたり読んだりしたことの内容理解が難しい場合があります。指示や説明する際には、理解できているか、確認しながら進めます。

音読が正しく できるようになるために

○こんなときは

視力には問題がないのに、「文末を読み間違える。」「行を飛ばして読んでしまう。」「文字を抜かしたり勝手に読み替えたりする。」子どもがいます。また、たどり読みになったり、漢字の読みが困難だったりする場合があります。

●それはどうして？

ものを見る時「一番見たいもの（図）」に焦点を当て「そのほかのもの（地）」は意識の外にしています。この力が弱いと、目で文字の形をとらえること、一行の中に並ぶ文字を目で追うこと、今読んでいるところと他の行との区別をすることなどが難しくなります。

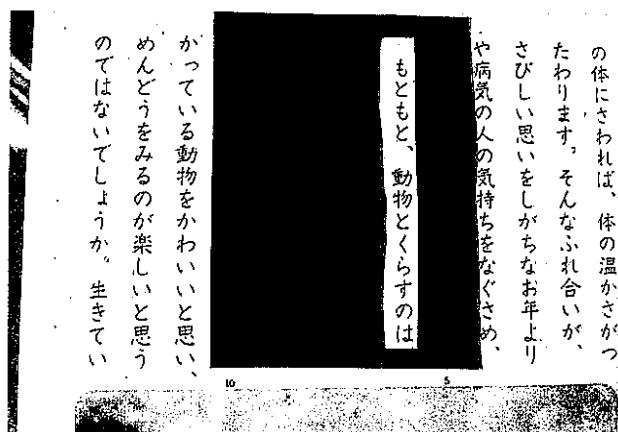
文字の意味をしっかりと把握していない場合は、たどり読みになったり、文節で区切って読むことが難しくなったりします。注意を集中させないと、読み間違えたりや思い込みで読んでしまったりします。

このほか、眼球の動きがうまく調節できないために文末まで目で追っていくことが難しい子どももいます。

このような課題を持つ子どもは、音読に対する苦手意識から、学年が上がるにつれて音読を嫌がる傾向にあります。読みの誤りについてよく観察し、練習方法を工夫していくことが大切です。

キーワードは、音読の練習方法の工夫

- 新しい単元に入る時に、教科書の読み聞かせをします。読み聞かせの時には、意図的に文節で区切って読んでみせます。補助手段の必要な子どもには、文節ごとに斜線を書き込ませたり、読めない漢字には必要に応じて仮名を打たせたりします。
- 先生の範読に合わせて読む方法、一行ごとに交代して読む方法など、音読の練習に変化を持たせながら、少しずつ長く読めるようにします。



◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 定規を当てたり指でなぞったりして読ませ、読んでいるところを注目させます。行を飛ばして読んでしまう場合は、読んでいる行だけしか見えないように他の場所を隠したり、一行分のスリットを空けたページカバーを使ったりする方法もあります。(挿絵参照)
- 家庭での練習では、模範の音読CDを活用します。
- 読み間違ったときは、その都度正しく言い直させます。高学年では、自分の課題を意識して、自ら補助手段を使うなどの意識を持たせるように工夫します。

文字を正しく ていねいに書くために

○こんなときは

文字を書くことが苦手な子どもがいます。どうしてもひらがなやカタカナを書くことができなったり、鏡に映したように左右が反転した文字を書いたりします。また、判読しにくい乱雑な文字を書いたり、筆順が異なる書き方をしたりします。

●それはどうして？

文字を書くことが苦手な子どもの中には、筆順を意識できずに記号のように目でとらえたそのままを書こうとする子どもがいます。また、形の大きさや向き、重なりなどが区別できず、本数など細かいところに注意を向けられない子どももいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 初期の段階では、表記の正しさよりも、書く意欲を大切にします。
- 鉛筆の濃さを工夫し、握りを固定させるためにグリップを付けるなどして調整をします。
- 書き取りの場合は、声を出して文字を読みながら書き写させます。
- 行間、文字やます目の大きさなどの工夫をします。
- 問題数は、少なめにして達成感を持たせます。

キーワードは、「書けた！」という達成感

○正しい姿勢と正しい筆記用具の持ち方を身に付けます。

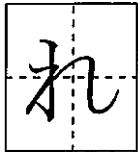
○文字の学習プリントで、段階的に練習します。

手本	1	2	3	4	5
し	し	し	し		
① へ ② し	① へ ② し	① へ ② し	① へ		

○お手本を上置く方が鏡文字は少なくなります。

・鏡文字になりやすい文字は「く」「つ」「し」「う」などです。

○ひらがなは、視写よりも写し書きの方が形を覚えられます。



- ・4分割されたます目に文字を書きます。
- ・間違いやすい文字は、「れ」「ね」「わ」などです。

○筆順の番号にしたがって書きます。

- ・画数の少ない文字から画数の多い文字へと進めます。
- ・始点と終点を意識して、ていねいに書かせます。

○「文字書き歌」を活用します。

- ・まるいわなげの「わ」
- ・はねて、つながる、れっしゃの「れ」など。

特殊音節が 書けるようになるために

○こんなときは

小さな「や、ゆ、よ」や、つまる「っ」、伸ばす「う」など特殊音節の言葉を適切に書くことができない子どもがいます。

●それはどうして？

言葉の音の聞き分けが不十分で、文字との結び付きも確立していないためです。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

○視覚的に理解を促すために、色カードや手のサインを使います。

- ・色カード（清音は青色、長音は赤色、促音は黄色）
- ・手のサイン（拗音は両手をねじる、促音はグーの手、長音は指で伸ばす）

○4分割されたます目ノートを活用します。

- ・小さな「や、ゆ、よ」や、つまる「っ」の文字の大きさや位置を意識して書かせます。

○文字の違い、読み方の違い、意味の違いを段階的に理解させます。

キーワードは、表記のルールの習熟

○先生の言う音を聞き取って○で囲ませます。

1	きゃ	き	し
2	きゃ	ちゃ	しゃ
3	しゃ	きゃ	ちゃ
4	みゃ	みゅ	みよ
5	りゃ	じゃ	りゅ

○間違いを訂正しながら、表記のルールを身に付けます。

むかしむかし、あるところに おじいさんと おばさんが、
なかよく くらしておりました。

ある日、おはあさんが、いつものよに 川でせんたくをして
おりますと おうきなももが むこのほうから どんぶらこ
と ながれって きました。

○カードの絵と文を合わせます。

○特殊音節の部分に印を付け、音の並び方に注意を向けさせます。

○下のような単語の学習プリントを活用して練習します。

ことば	1	2	3	4	5
り	り	り	り		
ゅ	ゅ	ゅ			
う	う				

漢字を覚えて 書けるようになるために

○こんなときは

漢字を覚えることや書くことが苦手な子どもがいます。

●それはどうして？

漢字を覚えることが苦手な子どもの中には、目で見えて記憶することが弱いために漢字の筆順どおりに書けない子どもがいます。

目で見えて全体を把握する力が弱いと、漢字の形を把握したり書くときにその形を構成したりすることが困難になります。また、音訓の読み方でつまずき、漢字の読み替えに対応できないこともあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

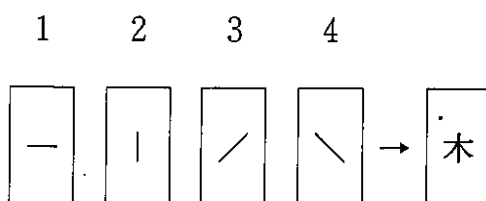
- 文字の形やバランスや書き順については、「できれば」という程度にとどめておき、書く意欲やていねいさをほめるようにします。
- 学習の量は、少なめにして達成感が持てるようにします。
 - ・例えば、毎日10個の漢字を3回程度書いて練習するなど。
- 補助手段としてパソコンやカードなどを活用するとよい場合があります。

キーワードは、覚え方のコツを教えること

○漢字を部分に分解して組み立てる足し算の方法を使います。

「公は、カタカナのハムだよ。」

○重ねると漢字ができるカードを使います。

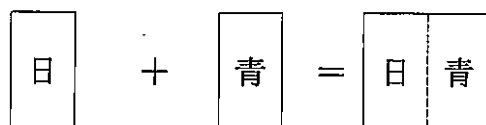


○書き順の方向を言葉で言います。

1 よこ 2 たて 3 ななめひだり 4 ななめみぎ

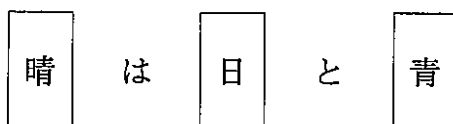
○漢字の構成を示します。

お日様 たす 青空 は 晴れ



○部分を組み合わせで作ります。

はれ 日 あお



○部首の組み合わせを言いながら覚えます。

例。「晴れという漢字は、お日様の横に青と書く。」

○「へん」と「つくり」などの手がかりを活用します。

例。「晴れという漢字は、左に日を書き、右に青を書く。」

○漢字の成り立ちや意味に興味を持たせます。

例。「川という字は、水が流れているような字だね。」

作文が 書けるようになるために

○こんなときは

作文を書くことが極端に苦手な子どもがいます。苦手意識が高じて、作文と聞いただけで嫌がって全く取り組もうとしない子どももいます。

●それはどうして？

作文を書くためには、体験したことを思い出さなければなりません。記憶が苦手な場合、体験したことを順序立てて思い出すことができないために、何から書き始め、どうやって書き進めるかが分かりません。

また、自分の考えをまとめることや、文法の理解が難しいと、書きたい内容があっても正しく文章化することができません。

見通しを立てることが困難で、作文を構成していく手順が分からないという場合もあります。

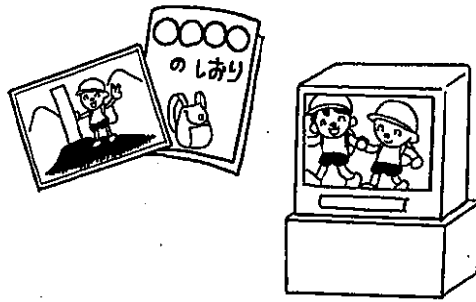
◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 作文を書き上げたときは、文字が少々整っていない量も量が少々不足していても「よし」として、書き上げたことを積極的にほめます。
- 文字を書くことが特に苦手な子どもには、家庭などではパソコンで入力させてみましょう。

キーワードは、このやり方なら「書けた!」という体験

○視覚的な教材を用います。

- ・しおりや写真などをそばに置いておくと、内容を思い出しやすく、書く材料を見つけやすくなります。



○作文の手順や文章モデルを具体的に示します。

- ・題材に応じて、作文を構成する手順を簡単な形で示します。
「いつ、どこで、だれが、何をした」
「はじめに、次に、それから、最後に」など
- ・穴埋め形式のプリントで簡単な作文を書く練習をする方法もあります。
- ・必要に応じて、すぐに使える文型や表現のモデルを示します。

穴埋めの作文例

ぼくは () に行きました。
はじめに () をしました。



○書く負担を軽減する方法や代替手段を用います。

- ・最も興味関心が表われている部分を取り上げて、少なめの量で書かせると、取りかかりやすくなります。書く量のめやすは、子どもが達成可能な量にします。
- ・用紙は、ます目や枠の大きさ、形式の工夫をします。
- ・一人だけ大きめのます目を使うのを嫌がる場合は、クラス全員にいくつかの大きさのます目から自分が書きやすいものを選ばせる方法もあります。

視写しやすい板書の工夫

○こんなときは

板書の文字や図をノートに写す時に、正しく書き写すことができなかつたり、いつも時間内に書き終わることができなかつたりする子どもがいます。そうしたことが重なると、だんだん板書を写す意欲がなくなります。

ノートを点検してみると、写した内容が不正確、中途半端であるため「やる気がない。」「いい加減だ。」と評価されがちです。

●それはどうして？

文字や図形を見て記憶し、再現することが難しいと、文字や図形を正確に写すことができません。すばやく目でとらえることが難しいと、黒板上の板書内容と手元のノートの記入する箇所がずれることがあります。その結果、視写が苦手になってきます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- なるべく黒板に近い座席にします。
- ノートや連絡帳を点検します。
- 雑であっても、視写に取り組んだことをほめて意欲を持たせます。

キーワードは、見やすい板書の工夫

○子どもが写しやすい板書の工夫をします。

- ・計画的で見やすい板書（位置・色分け・線による強調など）を心がけましょう。
- ・板書の量は少なくしましょう。
- ・板書の苦手な子どもには、事前に内容を書いたプリントを渡しておきましょう。
- ・板書の書き始めは、一ます空け、ノートと同じように改行しましょう。
- ・難しい図表などは、あらかじめプリントにして配りましょう。
- ・低学年では、まず目入りの黒板を活用しましょう。

○板書内容をプリントにして渡し、手元で写させます。視線の移動が少なく理解しやすくなります。



○文章を小さな声に出して読んでから書くようにさせると、聴覚からの情報を利用して目で見て書くことの苦手さを補うことができます。

抵抗なく テストに取り組むために

○こんなときは

練習問題はある程度できるのに、テストになると答えを書くことがほとんどできない子どもがいます。また、書いても答えを頻繁に間違え、問題文を読んでいないのではないかとと思われる子どももいます。

テストの点が取れないため、実際より学力が低く見えたり、やる気がないように見えたりします。学年が上がって設問が複雑になると、この傾向はますます強まってきます。

●それはどうして？

設問の意味や答え方が分からないと、テストの答えは書けません。読み取りに問題がある場合、問題文が読めても、題意や答え方がとらえにくいのです。設問中の語句の意味や漢字の読み方が分からないため、同様の状況になることもあります。

こうした理由から、テストに取り組む意欲が減退し、初めから書こうとしなくなる、あるいは分からないものとあきらめてしまうようになりがちです。



キーワードは、テスト前の練習と手段の工夫

○テストの前にテストの答え方を練習します。

- ・よく似た形式の問題で題意や解答方法の学習を行います。
- ・問題文によくみられる語句や漢字の意味を説明します。
- ・問題文のキーワードにしるしを付けて、要点を把握しやすくします。
- ・読解問題など、実際の問題文をOHPなどで大きく提示して、どのあたりに答えが隠されているかなど、解き方を学習するという方法もあります。



○テストの問題で難しそうなのは後回しにしてよいことを助言します。

○マークシートや選択問題の形式を用いて、書く負担を軽減するののも一つの方法です。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 必要に応じて、代替手段や補助手段を活用します。
 - ・問題文が読めない場合は、先生が問題文を読み上げるとよいでしょう。
 - ・書くことが特に苦手な場合は、書く時間を延長したり、解答欄を大きくしたりします。必要に応じて、口答による回答を担任が代筆する方法もあります。
 - ・テストを行う場所も配慮する必要があるかもしれません。そのような時は、本人の意向を尊重します。

※ 中学校では、定期考査の問題を先生が自作することが多いので、問題用紙・解答用紙ともに、目で見ても分かりやすく、設問も題意が理解しやすいように配慮する必要があります。

算数
計算

計算問題ができるようになるために

○こんなときは

知的には遅れがないのに、計算が正しくできなかったり、できても時間がかかったりする子どもがいます。

●それはどうして？

聞き取って覚えることが苦手な子どもは、簡単な一桁の足し算、引き算、掛け算九九、公式や単位の換算がなかなか覚えられません。暗算で計算すると、繰り上がった数を足し忘れたり、繰り下がったことを忘れて計算したりすることもあります。

全体の位置や方向がとらえにくいと、筆算で違う桁同士を計算してしまったり、横の式を筆算に直す時に桁をそろえ間違えたりすることもあります。

書くのが苦手な子どもは、暗算で済ませようとするので、桁数が多くなると混乱することがあります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

○できないからと言って、掛け算九九の暗記ばかりさせるのではなく、表やカードなどの補助手段を使って計算させてみましょう。自分なりのやり方なら計算できるという自信を持たせることが大切です。

○計算問題の数は少なめにして、できたという実感を持たせます。

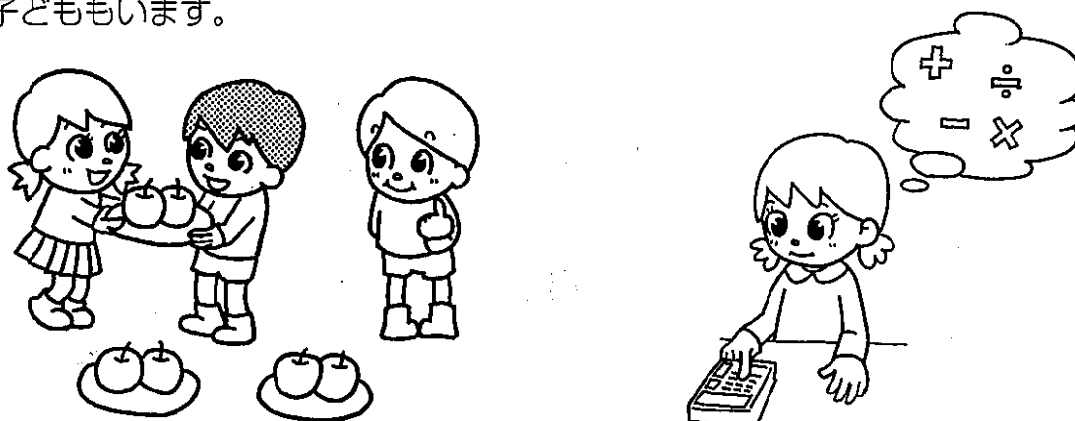
キーワードは、本人のペースに合わせることに補助手段の活用

○学級内にゆっくりでもきちんとできていることを認める雰囲気をつくり、それぞれの子どものペースや過程を大切にします。

○計算の時間を計る場合には、他の子どもと競わせるのではなく、本人自身の計算力の向上を評価します。

○計算練習をさせる時には、ゆっくりでも自力でさせる場面と補助手段を使って多くの問題を速くさせる場面に分けるのも一つの方法です。計算で不安を感じる場合は、掛け算九九表を見ることや電卓を使うことを認めることも考えられます。

○割り算の筆算などの手順を覚えられない場合は、割り算の手順表を作成し、それを見ながらするとよいでしょう。計算の手順を言葉にして、それを唱えながらする方が効果的な子どももいます。



○筆算では、繰り上がった数は必ず書き、記憶だけに頼らない方法を身に付けさせます。

○位取りを意識できるようにます目やたての罫線などがあるノートやプリントを使います。ノートには、大きめの字で書き、別の問題との間隔を広めにとらせるようにします。

○お金に置き換えて考えさせると、よく分かる子どももいます。

文章題ができるようになるために

○こんなときは

計算はできるのに文章題が解けない子どもがいます。適当に数字だけ選び出して式を作って答えを出してしまいます。

●それはどうして？

算数で、論理的な思考力が最も必要とされるのは文章題です。

文章を読み、式を立てるまでの段階は、論理的に文章の意味を理解する過程です。何が答えとして求められているのか、どの演算を使うのか、どちらの数字から足したり引いたり計算するのか理解しなければなりません。読みにつまずく子どもや論理的に考えることが苦手な子どもは文章題でつまずきがちです。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 難しい言葉や数字が並んでいると、ますます混乱してしまいます。その子どもが関心を持ち、やる気を引き出すような場面や内容に置き換えます。
- 簡単な数字でできている低学年用の問題で、加減乗除の何を使うかということや解き方の見通しを立てることに慣れさせておくことは効果的です。

キーワードは、本人の得意な解き方を見つけてあげること

子どもが得意とする理解の仕方に合わせて、問題提示、問題文、問題理解の支援の方法を工夫します。

○問題提示の工夫

- ・問題文を黙読して理解できない子どもには、先生が読み上げます。
- ・絵や図などの視覚的な手がかりを文章に添えて提示します。

○問題文の工夫

- ・「もらった」「食べた」「あげた」などの具体的な操作が可能な状況を問題文として取り上げます。
- ・子どもが経験したことがある場面を文章題にします。
- ・子どもの関心を引く人やキャラクター、物を問題文に入れます。

○問題理解の支援の工夫

- ・複雑な問題文は、やさしい言葉で言い換えます。
- ・絵や線分図を描いて、全体と部分の関係を理解させます。
- ・徐々に自分で絵や線分図を描かせて解くように促します。
- ・おはじきやタイルなどを使って操作させます。

※文章をパターン化して教える方法もあります。

- 〈例〉「もらう」「買う」「加える」→足し算
「食べる」「使う」「あげる」→引き算
「分ける」→割り算

※文意を読み取る時にポイントとなる言葉や数字に線を引かせると理解しやすいでしょう。

図形問題が できるようになるために

○こんなときは

コンパスや分度器などの道具を使うのが苦手な子ども、作図が正しくできない子ども、面積や体積を求めることが苦手な子どもがいます。

●それはどうして？

図形やグラフなどの問題を解くためには、線や点を目で追って形をとらえ、位置関係を理解し、定規などの道具が使えなければなりません。しかし、目で見ても全体を把握することが苦手な子どもは、形や位置関係の把握が弱く、これらのことが難しくなります。

手先が不器用な場合、定規をしっかりと押さえて線を引くことが難しかったり、コンパスが上手に扱えず円がきちんと閉じなかったりすることがあります。

また、論理的な思考が難しく、面積や体積をどうしたら求められるのか分からない子どもや公式を覚えるのが難しい子どももいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 視覚的なゲームやパズルに親しませておくと、方向や形に対する感覚が育ち、地から図を見分ける練習にもなります。
- 1ミリメートルの目盛りがとらえにくい子どもには、センチメートルの目盛りだけの定規を作って使わせ、ミリ単位の読み取りは要求しないようにします。

キーワードは、操作活動を取り入れることと道具選び

○操作活動を取り入れます。

- ・形を体感させます。例えば、校庭に□や△の形にレンガなどを敷き、その上を歩かせ、角の違いに気付かせます。
- ・棒を使っていろいろな形を作り、辺や頂点に注目させます。
- ・色板を重ね合わせて仲間分けをさせます。また、その中のいくつかを組み合わせで別の形を作るゲームをさせてみましょう。
- ・変形した立体の体積を求める場合には、1立方センチメートルの積み木を並べさせ、量感をつかませるとよいでしょう。

○定規や分度器は、線がはっきりしていて目盛りが大きく読みやすいものを選ぶようにします。

○コンパスは、重くてしっかりとしている製図用が使いやすいようです。



○道具の使い方を工夫します。

定規の裏にビニールテープをはると滑りにくく、使いやすくなります。コンパスの針を刺す位置の裏に厚紙などを敷くと安定して描きやすくなります。

○コンパスの持ち方、押さえ方、指先の使い方などは繰り返していねいに指導します。

○公式が覚えられなかったり、単位が換算できなかったりした場合は、公式表や換算表を使うことを認めるようにします。

資料を正しく読み取る ために

○こんなときは

資料を読み取る際、いろいろな要素が関係してくると、整理して考えることが難しい子どもがいます。また、学習への参加意欲が低下している子どもがいます。

●それはどうして？

注意集中が難しい子どもは、一つの資料に注目して何を読み取ればよいか、落ち着いて考えることが難しかったり、一度にいくつもの要素を提示すると、混乱してしまったりすることがあります。

また、友だちとの関係がうまくいかず、グループ活動への参加が困難になったり、落ち着いて学習に取り組むことができなかったりします。そのため、社会科の学習に苦手意識が強くなり、学習への参加意欲が低下してしまいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 課題を提示する際、考える視点を一つか二つに絞って提示します。
- 考える課題を具体的な作業に置き換え、作業をしながら気付きを促します。
- テストの時など、個別に視点を助言することも一つの方法です。

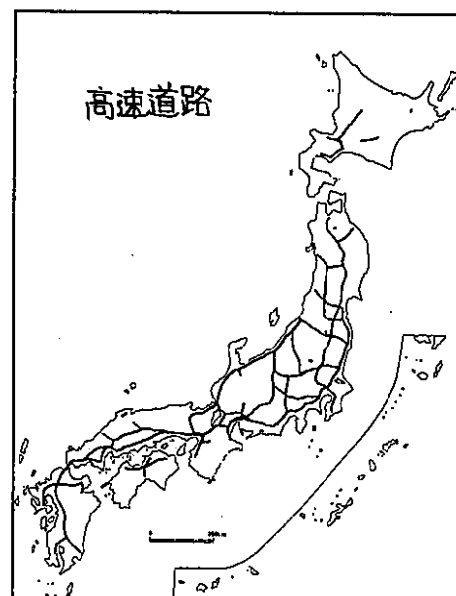
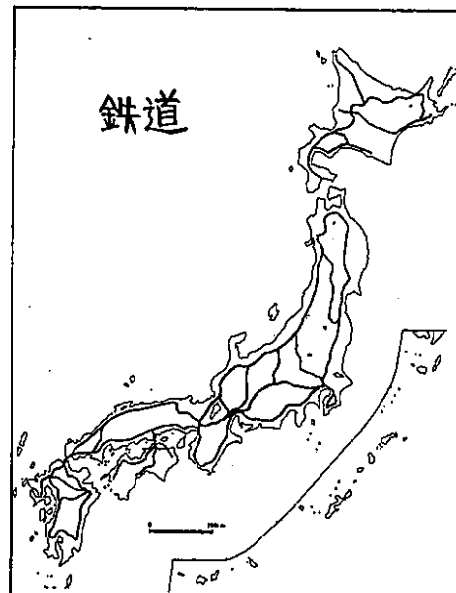
キーワードは、読み取りの視点を明確にして伝えること

○資料は、読み取る視点を明確にします。

○具体的に作業をさせながら気づきを促します。

○資料を活用する際、読み取ったり作業したりする視点は、一つに絞ると理解しやすくなります。

・次の例のように、日本の工業の盛んな地域を調べる学習では、人口、鉄道などそれぞれの要素を別々にTPシートに写して読み取り、その後、重ね合わせて全体的な特徴をとらえるような工夫も考えられます。



実験や観察が スムーズにできるために

○こんなときは

手順を説明しても、実験に必要な道具や材料の準備に時間がかかったり、手順が分からず最後まで実験ができなかったりすることがあります。

●それはどうして？

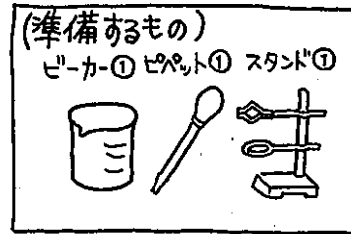
私たちは話を聞くとき、「聞きたい音や声」に注意して「他の音や声」は意識の外にしています。その結果、「聞きたい音や声」の音量は増幅され「他の音や声」の音量は小さく意識されます。耳で聞き取る能力に困難さがあると、「聞きたい音や声」を浮かび上がらせることができない場合があります。また、たくさんの話し声を聞き分ける力やしばらくの間、聞いたことを覚えておく力に弱さがみられる子どももいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 言葉の指示に加えて、写真や絵、図、文字などの視覚情報を一緒に提示します。
- 全体への指示の後に、机間指導を行い、学習内容を理解しているか確認します。

キーワードは、視覚情報を提示すること

○実験に必要な道具や材料は、写真や絵など視覚的に分かるように提示します。



○実験の手順は図式化して提示します。

例

【実験の手順】

- ①はじめに・・・
- ②次に・・・
- ③そして・・・
- ④それから・・・
- ⑤最後に・・・

○観察のポイントを分かりやすく提示しておきます。

例

【観察のポイント】

- ・色がどのように変わったかな？
- ・形がどのように変わったかな？



運動を楽しく できるようにするために

○こんなときは

運動は好きなのに、手と足の動きがバラバラで、なわとびや器械運動、球技などで身体の各部の動きがちぐはぐになり、うまくできない子どもがいます。高学年になってもボタン掛けがうまくできない、はさみがじょうずに使えない、ひも結びができない子どももいます。

●それはどうして？

身体を動かす方向や強さなどのコントロール、手と足あるいは両手で異なる動きをすること、他の人の動作を自分の身体に置き換えて模倣することの困難さが考えられます。一連の動きをつなげる運動企画の能力が低いと、跳び箱で「走る→踏み切り板を蹴る→跳び箱に手をつく→身体を移動させて跳ぶ」など、一連の動きを理解したり覚えたりすることが難しいようです。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 運動ができない、嫌いだと思わせないようにします。興味のある課題や用具を工夫し「できた。」という達成感が積み重ねられるよう、補助具を用いるなど必要に応じて支援をします。
- 声かけによって、動作をコントロールさせるとうまくいく場合もあります。

キーワードは、課題の工夫と用具の工夫

○感覚が鈍い、筋力が弱いなどの問題を感じたら、身体部位の知覚や筋力を高める活動を取り入れます。

・各運動に必要な動きを、体ほぐしの運動に取り入れます。

○協応運動はやさしいもの、興味のあるものから取り組みます。

・キャッチボールなどでは、ボールの大きさや材質を能力に合わせ、ゲーム性の高い活動を工夫します。

○特定の運動を身体各部位に分けて練習します。

・単純な動作による運動遊びから始めます。次にできるようになった動作を組み合わせて運動を構成させ、複雑な動作にも挑戦させます。

○足、膝、頭などボディイメージを意識できるような活動を取り入れます。

・先生や友だちとペアを組んで、体の動かし方を理解させます。

【なわとびスモールステップでの練習（例）】

同じ位置で一定の高さとリズムで跳ぶ



片手になわを持って回す



なわを回したら跳ぶ



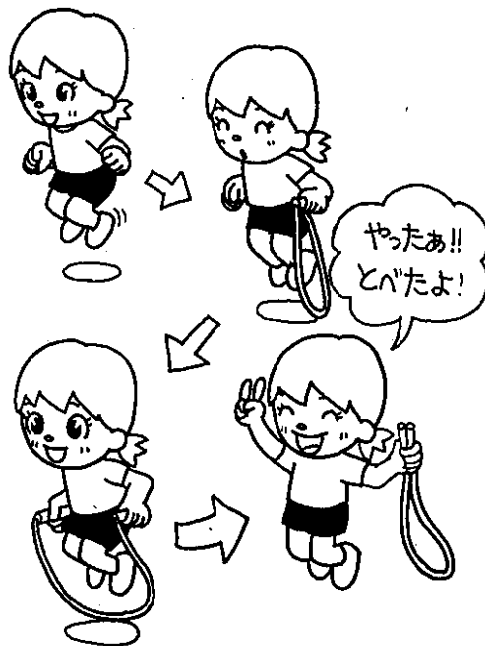
タイミングが取れるまで練習する



両手でなわを持ち、実際に跳ぶ



タイミングの取り方は「手を回したらピョンと跳ぶよ」と動作を言語化する。



リコーダーを うまく演奏するために

○こんなときは

歌うことは好きなのに、リコーダーの演奏がうまくできない子どもがいます。穴の位置も覚えていないようで、うまく穴をふさいで音を出すことができません。無理にさせようとすると音楽の学習を拒否することもあります。

●それはどうして？

聴いた音を聞き分けたり、理解したりすることや聴いた音や目で見たものを覚えることが難しい子どもがいます。

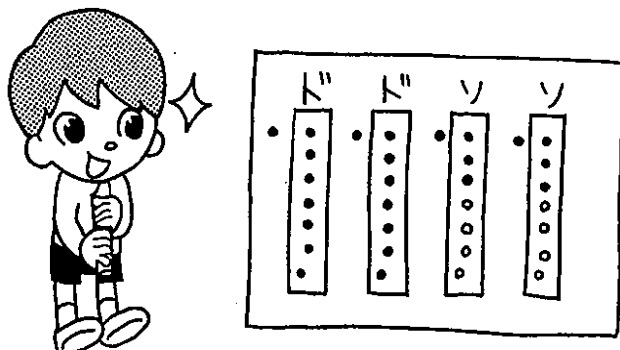
また、身体各部位の協応運動をスムーズに行うことなどが難しいと、吹きながらリズムを取ったり、指の操作で音を変えたりするなど一度にいくつもの操作を要求されるリコーダーの演奏は、非常に難しくなります。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

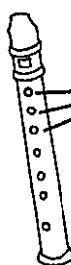
- 運動面で不器用な子どもには、道具を工夫することも有効です。
- まずは、苦手意識を取り除き、自分でも楽器を演奏してみたいという気持ちにさせることが大切です。
- 個別の指導を行ったり、演奏しやすい音を中心にした簡易楽譜を作ったりするなどの工夫をします。
- どうしてもリコーダーの演奏が難しい場合は、無理に要求することは避けましょう。歌を歌ったり違う楽器を演奏したりすることを通して、音楽が好きになるようにしましょう。

キーワードは、楽譜の工夫と楽器の工夫

○階名を覚えさせたり、階名譜を工夫して提示したりします。



○手指の不器用さに対応する方法としてリコーダーの穴に魚の目パッドをはり、穴をふさぐ感覚が認識しやすいようにする方法もあります。



◎市販の「魚の目パッド」を
穴に合わせてはる
上手になったら外してよい

○手指の機能的な問題として難しい場合には、穴の位置が子どもの指に合わせて変えられる可動式のリコーダー（アウロス社製）もありますので、子どもの実態によって使用してみるのもよいでしょう。

楽しく表現活動をするために

○こんなときは

他の子どもに比べてとても幼い絵しか描けず、人物画もうまく描けない子どもや物を見て描いても、その物の形を表すことができない子どもがいます。

不器用なため工作も苦手で図画工作の時間を嫌がり、友だちの邪魔をしてしまう子どももいます。

●それはどうして？

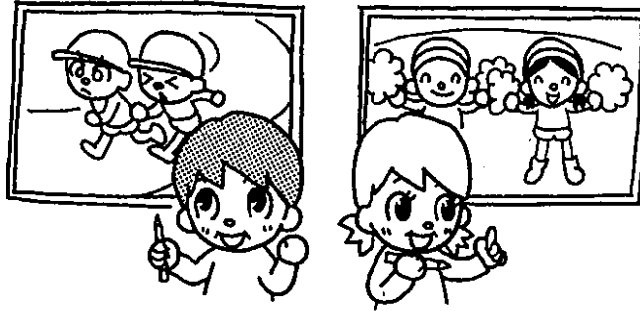
意味的な分析力が弱いと、題材を理解することが難しく活動している状況がつかみにくくなります。目で見えたものを理解する力や記憶する力が弱いと、物の形や向きをとらえたりすることが難しくなります。また、形を構成する力が弱いと、線や部分を組み合わせて絵を描いたり、形を構成したりすることができにくくなります。不器用といわれる子どもの中には、運動や目と手、両手の協調運動が苦手な子どももいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

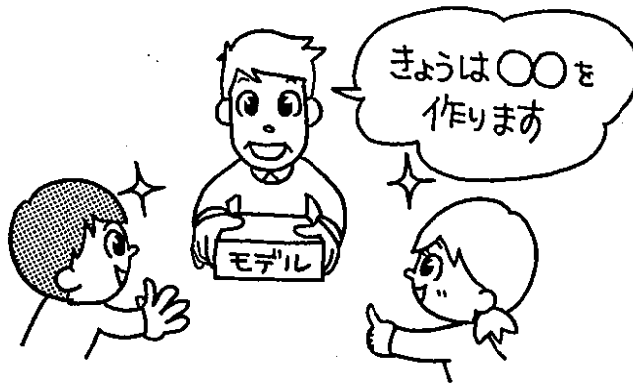
- まずは、絵や工作に対する苦手意識を取り除くことが大切です。
- 完成した作品にとらわれず、作る過程を楽しむことができるように声かけをし、うまくできたところをほめるようにします。
- 好きなキャラクターの色塗りや写し絵などによって描くことに慣れさせます。

キーワードは、課題の工夫と題材の工夫

- 「遠足」「運動会」など自分の経験したことを思い浮かべて描いたり、作ったりするときには、そのときにどんなことをしたのかを話し合ったり、写真や場面絵などを提示したりすると取り組みやすくなります。



- モデルを示すなどして題材に対する理解を深めます。



- 太陽、月、花、木などのパターン化された絵や○、△、□、直方体、立方体などいくつか描けるものや形作れる物があると、絵や工作に対する抵抗感もなくなります。

- のり、はさみ、セロハンテープ、絵の具など道具の使い方をていねいに指導するようにします。

インタビューが うまくできるために

○こんなときは

施設見学やゲストティーチャーを招いての学習のとき、インタビューの仕方が分からず、質問することができない子どもがいます。また、ゲストティーチャーなど大人の人にも同年齢の人に話すような調子で話しかける子どもがいます。

●それはどうして？

人は、社会とのかかわりをとおしてソーシャルスキル（社会で生活していくための技能）を身に付けていきます。しかし、周囲の人とのかかわりや状況理解が苦手なため、年齢に応じた社会性が身に付いていない子どもがいます。

◎ 支援が必要な子どもへの配慮

- 取り組む前に、活動内容や目標について、個別に指示・確認するようにします。
- グループで活動する際は、仲良しの友だちや心配りのできる友だちのグループになるように配慮します。
- 活動する際にモデルが必要な場合は、よいモデルとなる友だちを見せるようにします。

キーワードは、スモールステップでソーシャルスキルを高めること

○インタビューをするために、日頃から必要なスキルを身に付ける活動を工夫します。

- ・あいさつができる
- ・お礼を言うことができる
- ・自己紹介をすることができる
- ・質問をすることができる
- ・許可を求めることができる
- ・会話をすることができる



○伝える内容をカードにして携帯し、必要なときに取り出して使えるようにします。

【インタビューカードの例】

○○さんとの会話 (例)

「こんにちは、△△学校の○年○組の□□です。」



「質問してもいいですか？」



「ありがとうございました。また、分からないことがあったら教えてください。」
「次の人に代わります。」



IV

北九州市内の 教育相談機関・専門機関

教育相談

- ◆北九州市立養護教育センター(教育機関)
- ◆北九州市立総合療育センター(医療・福祉機関)
- ◆通級指導教室(教育機関)
- ◆北九州市子ども総合センター(福祉機関)
- ◆北九州市自閉症・発達障害支援センター「つばさ」(福祉機関)

北九州市立養護教育センターでは どんな教育相談ができますか？

○相談の内容は？

- ・家庭でのしつけや養育に関する相談
- ・学校や幼稚園等での指導に関する相談
- ・学校や幼稚園等からの諸検査の依頼
- ・就学や進路に関する相談
- ・その他養護教育に関する情報提供

○相談の方法は？

来所相談

決められた日時に来所していただき、保護者・子ども・担任の先生からの相談に応じます。必要に応じて、行動観察や心理検査などを行い、相談を進めていきます。

○養護教育センター（小倉南区春ヶ丘10番2号） TEL 093-921-2230

・月曜日～金曜日 9：00～17：00

（在学校・園の校長・園長を通して予約必要）

○あいおい少年支援室

・水曜日（月2回）9：00～17：00

（在学校の校長を通して予約必要）

訪問相談

決められた日時に、養護教育センターの相談員等が学校や園へ出かけて、子どもの様子を参観するなどして、担任の先生に子どもの実態や対応の工夫など具体的なアドバイスを行います。

- 学校や園などから申込みがあれば、必要に応じて指導主事や相談員が学校や園などへ出かけて相談を行います。
(在学校・園の校長・園長を通して予約必要)

電話相談

障害のある子どもの教育についての相談を受け付けています。

- 養護教育センター（小倉南区春ヶ丘10番2号） TEL 093-921-2230
・月曜日～金曜日 9:00～17:00



まずは、電話をかけて
ください。

場 所 〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10番2号
TEL093-921-2230 FAX093-923-3010
交通機関 バスは「北方小学校前」下車 徒歩5分
モノレールは「北方駅」下車 徒歩15分

北九州市立総合療育センターでは どんな相談ができますか？

○総合療育センターとは？

- ・発達に障害があったり疑われたりする子どもたちの医療ならびに療育のための病院であり、社会福祉施設です。
- ・乳幼児期の早期療育から成人期の機能維持・健康管理に至るまで、医師をはじめ医療と福祉の専門職が治療や療育の相談に応じます。

○申込みの方法は？

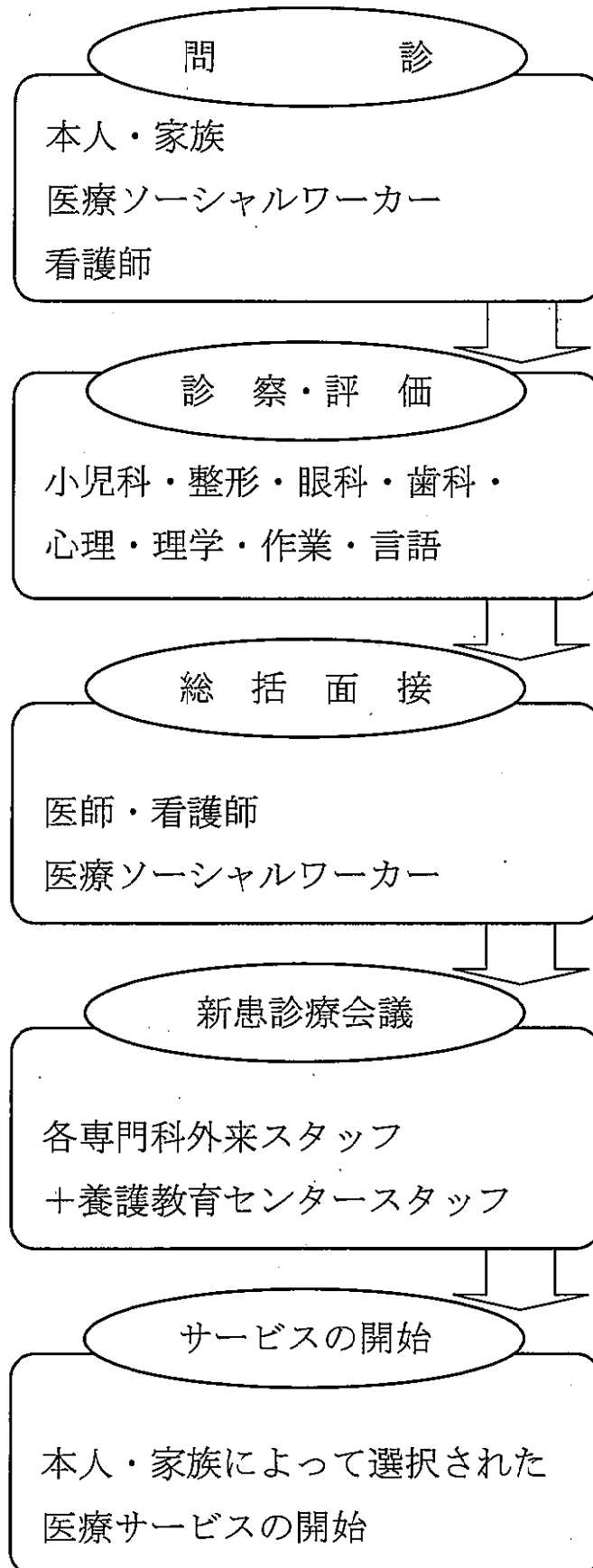
- ・初めて利用される場合は、電話で診察の予約をします。
子どもの状態を把握するために、最初に各専門職による総合的な診察や評価を行います。
- ・予約申込時間 月曜日～金曜日 13:00～16:00
- ・予約電話番号 TEL 093-922-5838 または 093-922-5839

○初診の総合外来は、毎週月曜日です。(予約申込後)

- ・当日は、利用の目的や希望をうかがいます。その後、必要と思われる各専門職による診察や評価をします。

場 所	〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10番2号
	TEL 093-922-5596 FAX 093-952-2713
交通機関	バスは「北方小学校前」下車 徒歩5分
	モノレールは「北方駅」下車 徒歩15分

○初診総合外来の流れ



I 学級集団をまとめるための指導・支援の工夫

II 集団行動に困難を示す子どものための学校生活の一日の流れに沿った指導・支援の工夫

III 学習に困難を示す子どものための各教科等の指導・支援の工夫

IV 北九州市内の教育相談機関・専門機関

通級指導教室入級のための手続きは？

○通級による指導とは？

- ・通常の学級に在籍している児童生徒で、言語、聴覚、視覚、情緒に軽度の障害のある児童生徒を対象にしています。
- ・各教科等の学習は通常の学級で受け、一人一人のつまずきや困難の状態を改善・克服していく特別の指導を通級指導教室で受けるというシステムです。
- ・通級指導教室が設置されている学校へ決められた日時に通って指導を受けます。通級指導教室に通う際は、保護者同伴となります。
- ・通級指導教室での指導時間は授業時間とみなされるため、出席扱いです。

○通級指導教室の設置状況は？（平成17年度現在）

ことばの通級指導教室

小倉北区 清水小学校 八幡西区 黒崎小学校
 八幡東区 中央中学校（難聴も対象とします）

耳の通級指導教室

小倉北区 小倉中央小学校 八幡東区 八幡小学校
 小倉北区 菊陵中学校（言語障害も対象とします）

目の通級指導教室

戸畑区 天籟寺小学校

情緒の通級指導教室

小倉北区 中島小学校 八幡西区 筒井小学校
 小倉北区 思永中学校

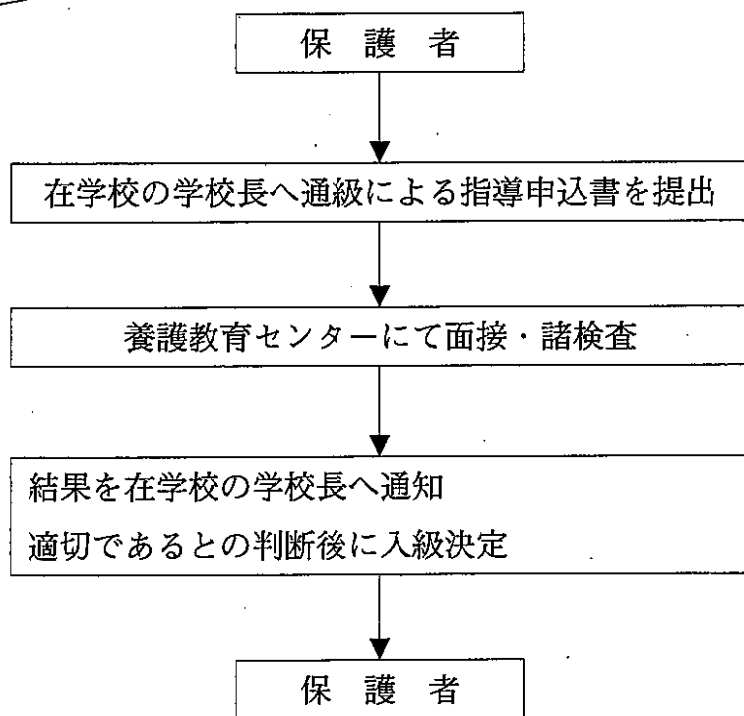
○申込みの方法は？

- ① 保護者が在籍している学校から申込み用紙「通級による指導申込書」をもらいます。必要な事項を記入し、押印の上、在学校の学校長へ提出します。
- ② 在学校の学校長を通じて北九州市教育委員会指導第二課へ申込みます。

○通級による指導を受けるために必要な手続きは？

- ① 通級による指導が適切であるかを判断するために、養護教育センターで面接や諸検査を受ける必要があります。
「通級による指導申込書」を受理した後に、教育委員会指導第二課の担当者から面接等の日時をお知らせします。
- ② 通級による指導が適切であるとの判断を受けた後、通級指導教室の児童生徒数の状況をみながら入級が決定されます。

手続きの流れ



※養護教育センターについては、81ページ参照

北九州市子ども総合センターでは どんな相談ができますか？

○子ども総合センターは児童福祉の専門機関です。

・対象は、18歳未満の児童です。

○相談の内容は？

・養育、保健、障害、虐待、育成（不登校等）、非行などの相談に応じます。

○その他の対応は？

○一時保護

・緊急に児童の保護が必要な場合など、子どもを短期間家庭から離し、一時保護を行います。

○施設措置

・家庭で養育することが困難な場合など、児童を児童福祉施設に入所させたり、里親などに委託したりします。

○いじめ・不登校等に対する学校巡回カウンセラー

・訪問日時 火、木、金曜日 15:00~17:00

○24時間子ども相談ホットライン

・いじめ、虐待、ひきこもりなど子どもたちがかかえている不安や悩みのほか、子育てに悩む保護者からの相談にも24時間電話で応じます。

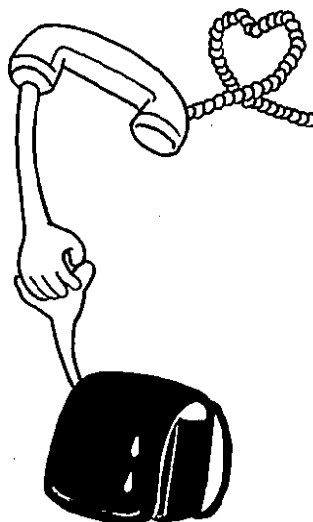
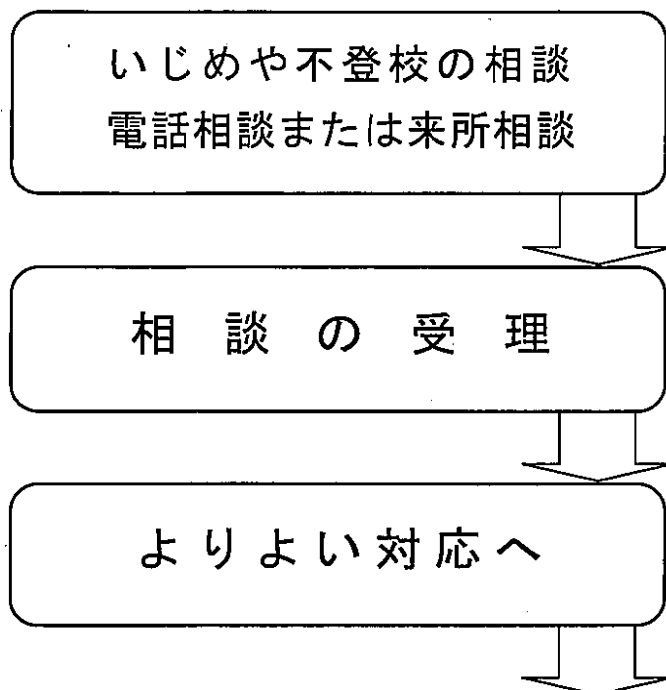
T E L 093-881-4152

場 所 〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号（ウエルとばた5階）

T E L 093-881-4556 F A X 093-881-8130

交通機関 JRは「戸畑駅」下車 バスは「戸畑駅前」下車

○いじめ・不登校の相談に関する「教育相談」



- 継続相談・訪問相談
- 非行や不登校などの相談は、
かなだ・わかぞの・くろさき少年支援室と連携
- 心因性の不登校の相談は、
あいおい・あだち少年支援室と連携
- 養育や虐待などの相談は、
児童福祉司（ケースワーカー）と連携

教育相談

北九州市自閉症・発達障害支援センター「つばさ」ではどんな相談ができますか？

○「つばさ」とは？

- ・北九州市内に住む自閉症の方を中心として、発達障害のある方々とその家族、かかわるすべての人々のための専門の支援センターです。

○利用の対象は？

- ・自閉症（高機能自閉症を含む）、アスペルガー症候群、レット症候群、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）などの発達障害のある障害児（者）および家族の方。上記の人たちを支援する方々および関係機関です。

○開設時間は？

- ・月曜日～金曜日 8：30～17：00
- ・緊急の場合は、ご都合に合わせて対応します。

○受付方法は？

- ・電話、FAX、Eメール、郵便、来所、訪問などの方法があります。

TELおよびFAX 093-922-5523

Eメールアドレス kitakyu.tsubasa@jcom.home.ne.jp

場 所	〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10番2号 北九州市立総合療育センター内
交通機関	バスは「北方小学校前」下車 徒歩5分 モノレールは「北方駅」下車 徒歩15分

○来所する場合は？

- ・「総合療育センター西棟1階の総合案内」に来所をお申し出いただくか、直接「つばさ」へお越しください。

○事業内容

相談支援

家庭や幼稚園・保育所・学校・施設などを訪問し、問題解決・軽減のための支援をします。
本人、家族、関係機関、施設等からの相談を受け、情報提供や助言を行います。

就労支援

関係機関との連携を図り、就労に向けての情報提供や助言をします。

研 修

関係職員の専門性を高めるための研修や保護者・家族のための研修をします。
障害の正しい理解や支援の方法を広めるための研修を行います。

普及・啓発

パンフレットやホームページなどを活用して、自閉症など発達障害に関する情報を提供します。

引用・参考文献

- 秋元有子 LD 児の算数のつまずき 聴覚的な処理が弱い子ども
月刊 実践障害児教育11月号 2003年
- 安藤寿子 視覚的な処理が弱い子どもの算数のつまずきと指導
月刊 実践障害児教育12月号 2003年
- 伊藤一美 読み書きの問題から算数のつまずきを示す子どもの指導
月刊 実践障害児教育 2月号 2004年
- 上野一彦 学級担任のための LD 指導 Q&A 教育出版 1996年
- 尾崎洋一郎 他 学習障害 (LD) 及びその周辺の子どもたち
同成社 2000年
- 尾崎洋一郎 他 ADHD 及びその周辺の子どもたち
同成社 2001年
- 神奈川県立総合教育センター LD、AD/HD、高機能自閉症の理解
と支援のためのティーチャーズ・ガイド 2004年
- 加藤辰雄 誰でも成功する 子ども集団の動かし方
学陽書房 2004年
- 海津亜希子 LD の子どもの算数のつまずきを考える
月刊 実践障害児教育10月号 2003年
- 海津亜希子・鈴木慶子 通常の学級における LD への算数の支援
月刊 実践障害児教育 3月号 2004年
- 北九州市情緒の通級による指導に関する研究サークル 通級による
指導の手引き (第2集) 2003年
- 竹田契一 他 図説 LD 児の言語・コミュニケーション障害の理
解と指導 日本文化科学社 1997年
- 竹田契一 他 LD 児サポートプログラム 日本文化科学社 2000年
- 東京コーディネーター研究会 ジアース教育新社 通常の学級担任
のための指導のヒント集 どのクラスにもいる“特別な教育的ニ
ーズがある子”への支援 2004年
- 福岡県教育センター LD (学習障害) 児等への援助ークラスの中
の気になる子ー 1997年

- 藤田和弘・青山真二・熊谷恵子 編 長所活用型指導で子どもが変わる 図書文化社 2000年
- 松本治雄・後上鐵雄 言語障害 1998年 ナカニシヤ出版
- 吉田昌義 他 つまずきのある子の学習支援と学級経営 ー通常の学級における LD・ADHD・高機能自閉症の指導 東洋館出版社 2003年

研 究 同 人

代 表	北九州市立中島小学校	校 長	藤井阿里砂
	北九州市教育委員会	指 導 主 事	奥田まさ子
	北九州市立養護教育センター	教諭職長期研修員	山田 浩司
	北九州市立清水小学校	教 諭	明瀬 真二
		教 諭	渡邊 文子
	黒崎小学校	教 諭	宮宗 好子
		教 諭	有吉 康子
	筒井小学校	教 諭	毛利あかね
		教 諭	森 由紀
	中島小学校	教 諭	濱邊紀代美
		教 諭	金子 良子
		教 諭	林 勝行
		教 諭	藤原 文恵
	教 諭	中村 尚子	
	教 諭	田口 美子	
挿絵・カット 助 言 者	清水小学校	学校事務補助員	島村 亜弓
	北九州市立養護教育センター	所 長	喜田 昌幸
	北九州市立上津役小学校	校 長	野田加奈子
協 力 者	北九州市立三郎丸小学校	教 諭	小野 真子
	北九州市立養護教育センター	指 導 主 事	本家 清文
		指 導 主 事	山本 康子
		指 導 主 事	相良 勝弘
	北九州市立北小倉小学校	教 諭	白石 真弓
	北九州市立萩ヶ丘小学校	教 諭	植木 直子
	北九州市立槻田小学校	教 諭	上野 靖子

北九州市教育委員会

小・中学校における

通常の学級担任のための指導のアイデア

—特別な教育的支援が必要な子どもへの指導・支援の工夫—

平成17年3月

発行 | 北九州市教育委員会
北九州市小倉北区大手町1番1号
TEL.093-582-2367 FAX.093-581-5873

